

## 2. 「学習内容定着度調査」結果の状況

### (1) 各学年の結果概要

#### 小学校第6学年

- 各教科の正答率は、算数、理科が参考値をそれぞれ4.1ポイント、0.9ポイント上回っており、国語、社会がそれぞれ1.3ポイント、1.1ポイント下回っている。
- 基礎・活用別に正答率を参考値と比較すると、基礎問題は、算数、理科が参考値をそれぞれ2.0ポイント、0.7ポイント上回っており、国語、社会がそれぞれ1.0ポイント、1.8ポイント下回っている。  
活用問題は、社会、算数、理科が参考値をそれぞれ0.6ポイント、9.1ポイント、1.0ポイント上回っており、国語が1.7ポイント下回っている。  
算数、理科は、基礎問題、活用問題ともに参考値を上回っている。

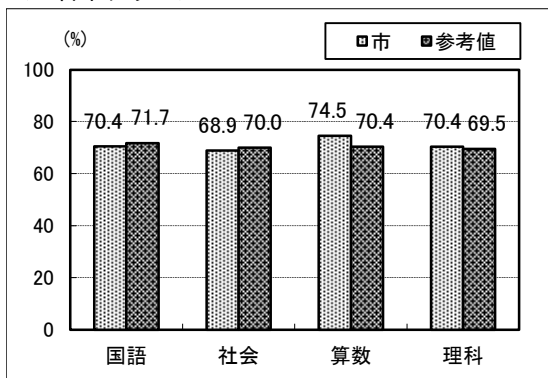
#### 1) 正答率 (%)

	国語	社会	算数	理科
宇都宮市	70.4	68.9	74.5	70.4
参考値	71.7	70.0	70.4	69.5

※参考値について：

他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率であり、本市児童生徒の定着度を客観的に分析するための参考として示している。

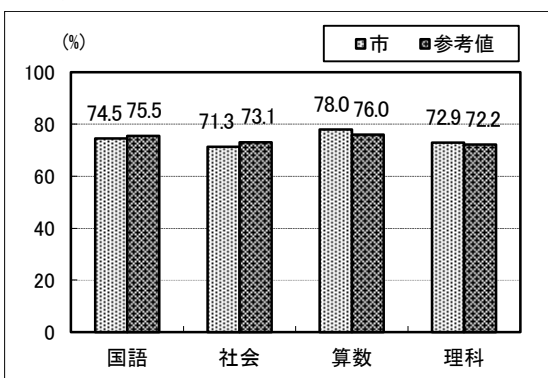
<正答率グラフ>



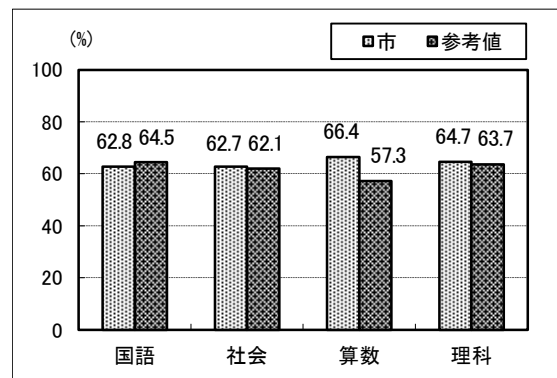
#### 2) 基礎 / 活用別正答率 (%)

	国語		社会		算数		理科	
	基礎	活用	基礎	活用	基礎	活用	基礎	活用
宇都宮市	74.5	62.8	71.3	62.7	78.0	66.4	72.9	64.7
参考値	75.5	64.5	73.1	62.1	76.0	57.3	72.2	63.7

<基礎グラフ>



<活用グラフ>



**中学校第3学年**

- 各教科の正答率は、すべての教科で参考値を 3.8～7.2 ポイント上回っており、数学が最も大きく上回っている。
- 基礎・活用別に正答率を参考値と比較すると、基礎問題は、すべての教科で参考値を 3.6～7.4 ポイント上回っており、国語が最も大きく上回っている。  
 活用問題は、すべての教科で参考値を 4.8～13.7 ポイント上回っており、数学が最も大きく上回っている。  
 すべての教科で、基礎問題、活用問題ともに参考値を上回っている。

1) 正答率

(%)

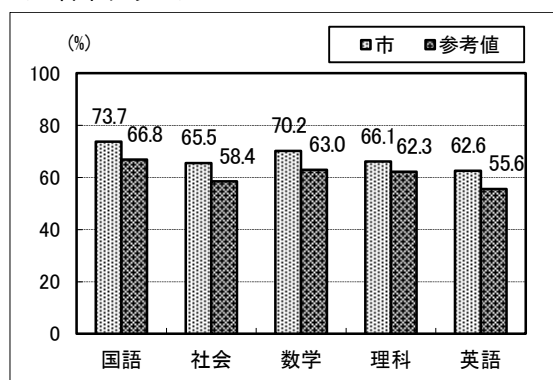
	国語	社会	数学	理科	英語
宇都宮市	73.7	65.5	70.2	66.1	62.6
参考値	66.8	58.4	63.0	62.3	55.6

※参考値について：

他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率であり、本市児童生徒の定着度を客観的に分析するための参考として示している。

なお、社会については、出題した設問の中に本市独自の設問もあり、「参考値」がすべての設問に対応した値ではない。

<正答率グラフ>

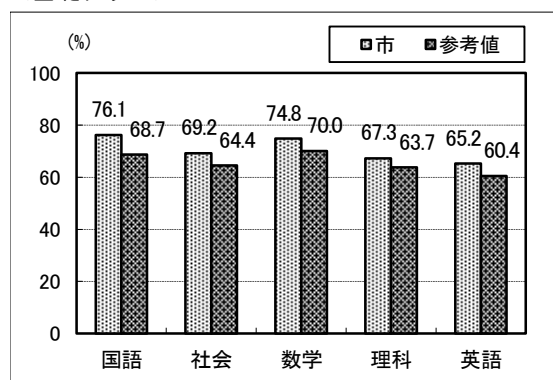


2) 基礎 / 活用別正答率

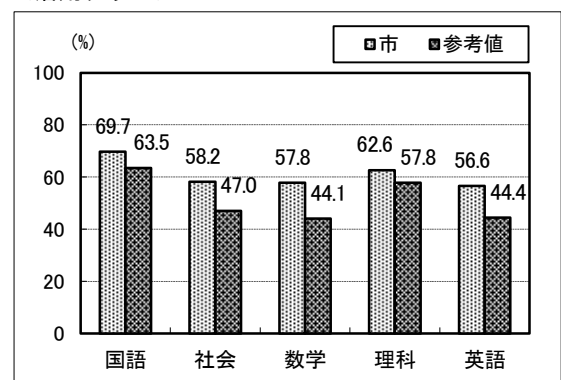
(%)

	国語		社会		数学		理科		英語	
	基礎	活用	基礎	活用	基礎	活用	基礎	活用	基礎	活用
宇都宮市	76.1	69.7	69.2	58.2	74.8	57.8	67.3	62.6	65.2	56.6
参考値	68.7	63.5	64.4	47.0	70.0	44.1	63.7	57.8	60.4	44.4

<基礎グラフ>



<活用グラフ>



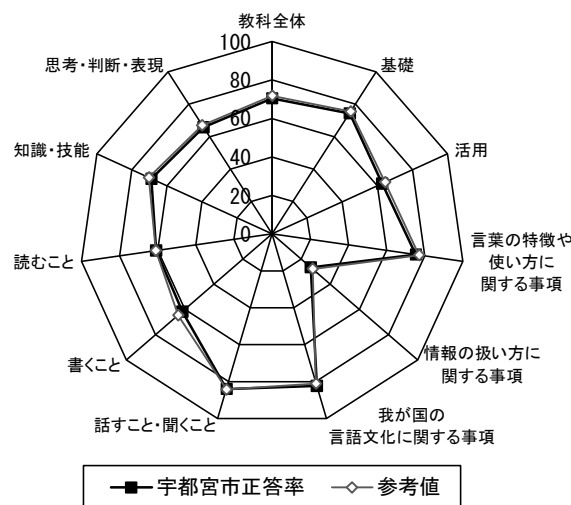
## (2) 小学校第6学年結果分析

### 1) 小学校第6学年 国語

【カテゴリー別正答率】 (%)

	宇都宮市 正答率	参考値
教科全体	70.4	71.7
活用別		
基礎	74.5	75.5
活用	62.8	64.5
領域別		
言葉の特徴や使い方に関する事項	75.3	77.1
情報の扱い方に関する事項	26.5	27.8
我が国の言語文化に関する事項	82.4	81.0
話すこと・聞くこと	83.9	84.2
書くこと	61.7	64.5
読むこと	60.9	61.0
観点別		
知識・技能	68.8	70.3
思考・判断・表現	65.8	67.0

実施人数 3,916人



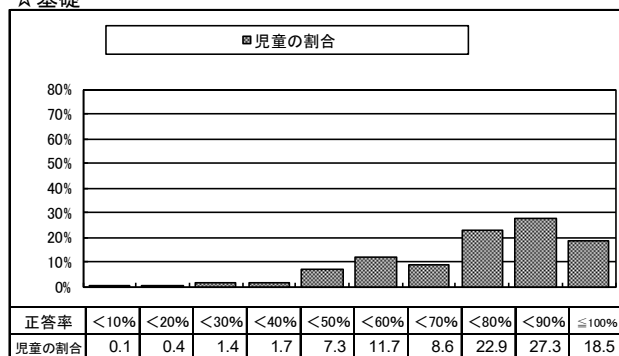
※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率であり、本市児童生徒の定着度を客観的に分析するための参考として示している。

#### ◆参考値と比較した本市正答率の状況

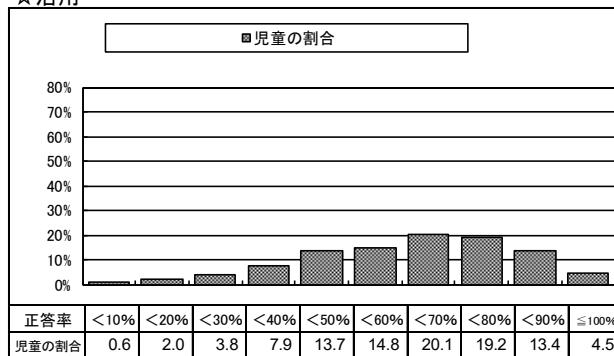
- ・基礎・活用別に参考値と比較すると、基礎問題は1.0ポイント、活用問題は1.7ポイント下回っている。
- ・領域別に参考値と比較すると、上回っている領域は、「我が国の言語文化に関する事項」(+1.4ポイント)。下回っている領域は、「書くこと」(-2.8ポイント)、「言葉の特徴や使い方に関する事項」(-1.8ポイント)、「情報の扱い方に関する事項」(-1.3ポイント)、「話すこと・聞くこと」(-0.3ポイント)、「読むこと」(-0.1ポイント)。
- ・観点別に参考値と比較すると、「知識・技能」は1.5ポイント、「思考・判断・表現」は1.2ポイント下回っている。

#### 【正答率度数分布】

##### ☆基礎



##### ☆活用



#### ◆基礎・活用別本市正答率の状況

- ・基礎問題において正答率が80%を超えている児童の割合は45.8%、正答率が50%未満の児童の割合は10.9%となっている。
- ・活用問題において正答率が50%を超えている児童の割合は72.0%となっている。

【設問内容及び設問別正答率】

問題番号			解答形式	出題のねらい	問題構成								宇都宮市正答率	参考値
大問	中間	小問			基礎・活用	領域					観点			
						方 言 に 関 する 事 項 の 特 徴 や 使 い	情 報 の 扱 い 方 に 関 する 事 項	我 が 国 の 言 語 文 化	と 話 す こ と ・ 聞 く こ と	書 く こ と	読 む こ と	知 識 ・ 技 能		
1	(1)		選択	話の内容を捉えている。	基礎				☆			◎	83.8	85.0
	(2)		選択	意図に応じて、質問を工夫している。	基礎				☆			◎	89.0	88.8
	(3)		記述	自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えている。	活用				☆			◎	78.9	78.8
2	(1)	①	短答	第6学年に配当されている漢字を正しく読んでいる。	基礎	☆						◎	99.1	98.9
		②	短答		基礎	☆						◎	98.5	98.5
		③	短答		基礎	☆						◎	93.0	91.1
	(2)	①	短答	第5学年に配当されている漢字を正しく書いている。	基礎	☆						◎	72.4	78.5
		②	短答		基礎	☆						◎	51.1	50.9
		③	短答		基礎	☆						◎	59.2	65.8
3	(1)		選択	三字の熟語の成り立ちについて理解している。	基礎	☆						◎	84.0	79.0
	(2)		選択	文章の中で、文脈に沿った漢字を適切に使っている。	活用	☆						◎	83.5	84.3
	(3)		選択	敬語について理解し、正しく使っている。	基礎	☆						◎	52.0	57.4
	(4)		短答	文と文との接続の関係を理解している。	活用	☆						◎	68.7	73.2
	(5)		選択	語句の由来に関心をもち、和語、漢語、外来語について理解している。	基礎			☆				◎	82.4	81.0
4	(1)		選択	登場人物の心情について、描写を基に捉えている。	基礎						☆	◎	81.2	82.1
	(2)		選択	登場人物の様子について、描写を基に捉えている。	基礎						☆	◎	63.5	62.9
	(3)		選択	文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。	活用						☆	◎	80.8	81.7
5	(1)		選択	文章全体の構成を捉えている。	基礎						☆	◎	63.5	63.5
	(2)		選択	叙述を基に文章の内容を捉えている。	基礎						☆	◎	59.2	59.5
	(3)		短答	情報と情報との関係について理解し、文章の情報を整理している。	活用		☆				☆	◎	17.2	16.4
6	(1)		選択	目的や意図に応じて、書き表し方を工夫している。	活用						☆	◎	72.5	75.0
	(2)		記述	情報と情報との関係について理解し、目的に応じて、文章を簡単に書いている。	活用		☆				☆	◎	35.8	39.3
7			記述	指定された長さで文章を書いている。	基礎						☆	◎	67.5	70.7
			記述	段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書いている。	基礎	☆					☆	◎	66.8	70.5
			記述	自分の意見とその理由を明確にして書いている。	活用						☆	◎	84.3	84.1
			記述	予想される反論とそれに対する意見を書いている。	活用						☆	◎	43.4	47.3

◆設問別分析

・大問5 (3)「情報と情報との関係について理解し、文章の情報を整理する」：正答率 17.2%

説明的な文章を読み、クジラの脂肪がもつ二つの働きについてのまとめの空欄ア、イにあてはまる言葉を、文章中の言葉を使って指定された文字数で書く問題である。アのみ正しい誤答が 13.4%、イのみ正しい誤答が 14.8%見られた。図式化して内容を整理するなどの学習活動を取り入れ、情報と情報との関係を整理して理解する力を高めることが大切である。

・大問6 (2)「情報と情報との関係について理解し、目的に応じて文章を書く」：正答率 35.8%

「七草がゆについて」というテーマの報告文の下書きの空欄部分に、七草がゆを食べることの栄養の面での意味と、文化的な面での意味を、資料①と資料②をもとにして書く問題である。正答率は参考値を 3.5 ポイント下回った。無解答率は 11.2%であった。七草がゆの栄養の面での意味と、文化的な面での意味の、どちらかの内容を正しく書いていない誤答が 36.8%と正答の割合を上回った。複数のテキストから取り出した情報を整理する力を養うとともに、目的や意図に応じて伝えたいことを明確にして書くよう指導することが大切である。

・大問7「文章を書く」(予想される反論とそれに対する意見を書く)：正答率 43.4%

「予想される反論と、それに対する自分の考えを具体的に書く」という条件に対する正答率は、参考値を 3.9 ポイント下回った。無解答率は 10.0%であった。より説得力のある意見とするためには、自分の意見に対して、相手からどのように反論されるのかを予想して、それに対する考えも用意しておくことが重要である。自分の意見や理由、予想される反論と反論への対応をメモに書き出し、文章全体の構成や展開を考える活動を通して、説得力のある文章の書き方を身に付けさせることが大切である。

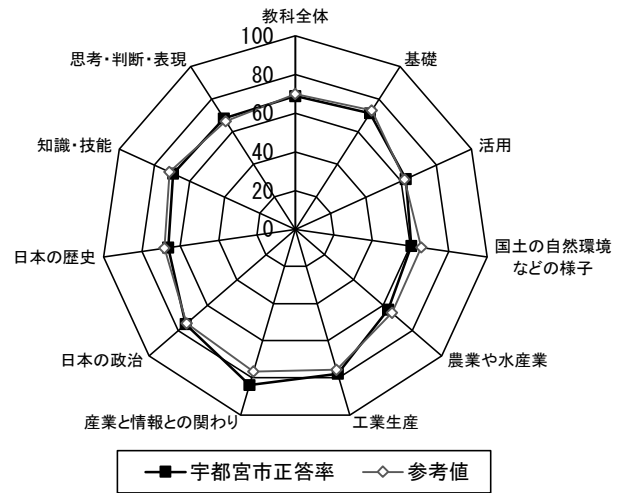
## 2) 小学校第6学年 社会

### 【カテゴリー別正答率】

(%)

		宇都宮市 正答率	参考値
教科全体		68.9	70.0
活用別・ 基礎	基礎	71.3	73.1
	活用	62.7	62.1
領域別	国土の自然環境などの様子	60.5	65.8
	農業や水産業	63.3	66.0
	工業生産	77.9	75.7
	産業と情報との関わり	83.8	76.6
	日本の政治	74.9	74.1
	日本の歴史	66.3	68.3
	観 点 別	知識・技能	69.3
	思考・判断・表現	68.1	66.4

実施人数 3,923人



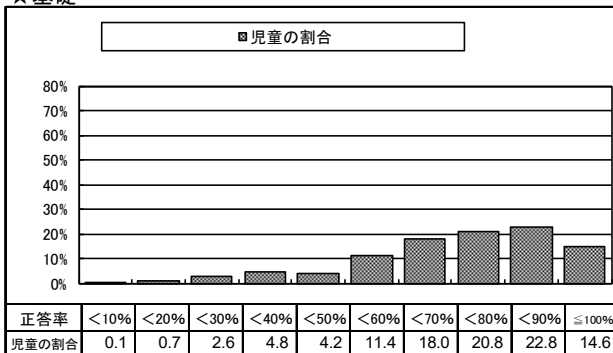
※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率であり、本市児童生徒の定着度を客観的に分析するための参考として示している。

### ◆参考値と比較した本市正答率の状況

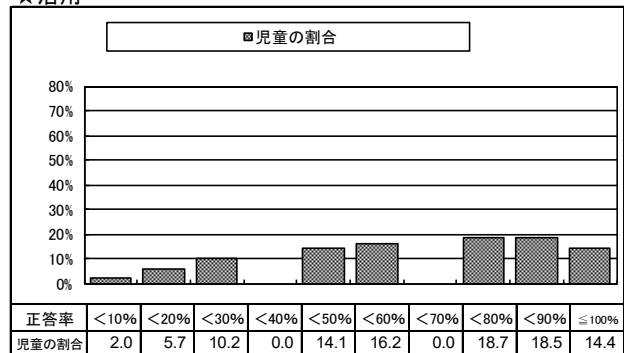
- ・基礎・活用別に参考値と比較すると、基礎問題は1.8ポイント下回っており、活用問題は0.6ポイント上回っている。
- ・領域別に参考値と比較すると、上回っている領域は、「産業と情報との関わり」(+7.2ポイント)、「工業生産」(+2.2ポイント)、「日本の政治」(+0.8ポイント)。下回っている領域は、「国土の自然環境などの様子」(-5.3ポイント)、「農業や水産業」(-2.7ポイント)、「日本の歴史」(-2.0ポイント)。
- ・観点別に参考値と比較すると、「知識・技能」は2.1ポイント下回っており、「思考・判断・表現」は1.7ポイント上回っている。

### 【正答率度数分布】

#### ☆基礎



#### ☆活用



※活用は設問数が7問と少ないため、正答率30%~40%未満、60%~70%未満の児童の割合が低くなっている。

### ◆基礎・活用別本市正答率の状況

- ・基礎問題において正答率が80%を超えている児童の割合は37.4%、正答率が50%未満の児童の割合は12.4%となっている。
- ・活用問題において正答率が50%を超えている児童の割合は67.8%となっている。

【設問内容及び設問別正答率】

問題番号			解答形式	出題のねらい	問題構成								宇都宮市正答率	参考値	
大問	中間	小問			基礎・活用	領域					観点				
						どの様子の国土の自然環境な	農業や水産業	工業生産	わたり産業と情報との関	日本の政治	日本の歴史	知識・技能			思考・判断・表現
1	(1)		選択	日本の周辺の海洋名について理解している。	基礎	☆						◎		74.3	86.1
	(2)		記述	海洋に囲まれ多数の島からなる国土の構成について、地図をもとに考え、表現している。	活用	☆							◎	64.0	60.4
	(3)		選択	季節風についての理解をもとに、太平洋側の気候の特色を雨温図から読み取っている。	活用	☆						◎		55.4	55.8
2	(1)		選択	米の品質を高める工夫について理解している。	基礎		☆					◎		86.4	81.2
	(2)		選択	日本の主な食料の自給率について理解している。	基礎		☆					◎		36.3	49.9
	(3)		選択	輸入などの外国との関わりにおける課題について考えている。	活用		☆					◎		67.2	66.9
3	(1)		選択	自動車の製造工程について理解している。	基礎			☆				◎		90.2	89.4
	(2)		選択	自動車の部品を再利用する目的について理解している。	基礎			☆				◎		86.9	84.9
	(3)		選択	日本の主な輸出品・輸入品について理解している。	基礎			☆				◎		56.5	52.8
4	(1)		選択	情報の発信と受信の注意点について考えている。	基礎				☆			◎		92.9	86.2
	(2)		選択	産業における情報活用の現状について考えている。	活用				☆			◎		74.8	67.1
5	(1)		選択	森林を守るための間伐について理解している。	基礎	☆						◎		82.7	81.5
	(2)		短答	公害について理解している。	基礎	☆						◎		26.1	45.0
6	(1)		選択	平和主義の基本的な考え方について理解している。	基礎					☆		◎		93.6	95.1
	(2)		選択	基本的な人権の尊重の基本的な考え方について理解している。	基礎					☆		◎		81.3	76.8
7	(1)		短答	租税の役割について、資料を読み取っている。	基礎					☆		◎		71.5	70.1
	(2)		記述	議会政治について、資料をもとに考え、表現している。	活用					☆		◎		53.0	54.6
8	(1)		選択	大和朝廷による統一について理解している。	基礎						☆	◎		62.6	62.0
	(2)		選択	天皇中心の政治の様子や日本風の文化が生まれたころの様子について理解している。	基礎						☆	◎		67.9	72.1
9	(1)		選択	鎌倉幕府の政治について理解している。	基礎						☆	◎		72.4	76.9
	(2)		選択	元との戦いについての理解をもとに、防塁が築かれた場所を判断している。	活用						☆		◎	43.5	51.4
	(3)		短答	雪舟について理解している。	基礎						☆	◎		53.6	62.8
10	(1)		選択	豊臣秀吉の政策の結果について考えている。	活用						☆		◎	81.3	78.2
	(2)		選択	豊臣秀吉の業績について理解している。	基礎						☆	◎		67.6	67.2
	(3)		選択	鎖国について理解している。	基礎						☆	◎		81.3	75.5

◆設問別分析

・大問2(2)「日本の主な食料の自給率についての理解」：正答率 36.3%

主な食料について日本の自給率を示す折れ線グラフから、小麦にあてはまるものを選ぶ問題である。正答率は参考値を13.6ポイント下回った。誤答は各選択肢に分散しており、誤答の選択肢①が28.3%、選択肢②が14.1%、選択肢③が21.1%見られた。授業では、輸入など外国の関わりに着目して、日本の食料生産の概要をとらえることができるよう、主な食料ごとに、自給率や、輸入相手国、輸入相手国別輸入量の割合などについて調べる学習活動を行うことが大切である。

・大問5(2)「公害についての理解」：正答率 26.1%

工場からの廃棄物などが原因で、環境や人の健康に被害が及ぶことを何というかを答える問題である。正答率は参考値を18.9ポイント下回った。無解答率は18.3%であった。授業では、日本の公害の発生時期や経過に着目して、公害防止のための取組をとらえることができるよう、どのような公害がいつ頃発生したか、どのように広がり、改善したかなどの問いを設けて調べる学習活動を行うことが大切である。

・大問9(2)「元との戦いについての理解をもとに、防塁が築かれた場所を判断する」：正答率 43.5%

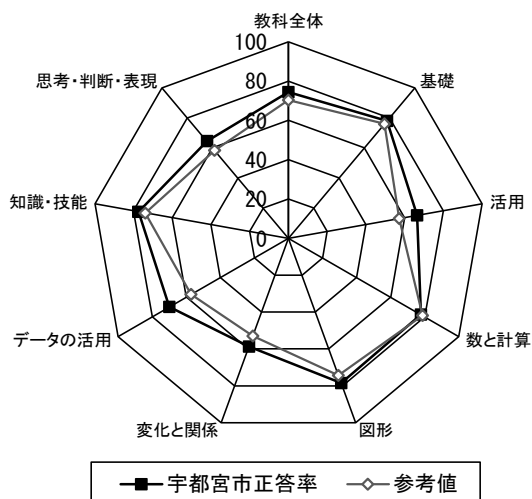
復元された防塁の写真をもとに、防塁がつけられた場所を地図中から選ぶ問題である。正答率は参考値を7.9ポイント下回った。誤答は各選択肢に分散しており、誤答の選択肢②が13.5%、選択肢③が15.1%、選択肢④が27.0%見られた。授業では、北条時宗や九州の御家人、防塁など、人物の働きや文化遺産に着目して、日本地図や世界地図などの資料で調べ、元との戦いの様子を年表や白地図などにまとめる学習活動を行うことが大切である。

### 3) 小学校第6学年 算数

【カテゴリー別正答率】 (%)

	宇都宮市 正答率	参考値
教科全体	74.5	70.4
活基礎	78.0	76.0
活用	66.4	57.3
領域別		
数と計算	77.7	78.6
図形	78.4	74.4
変化と関係	58.7	53.0
データの活用	69.9	57.2
観点別		
知識・技能	77.5	74.0
思考・判断・表現	64.5	58.4

実施人数 3,924人



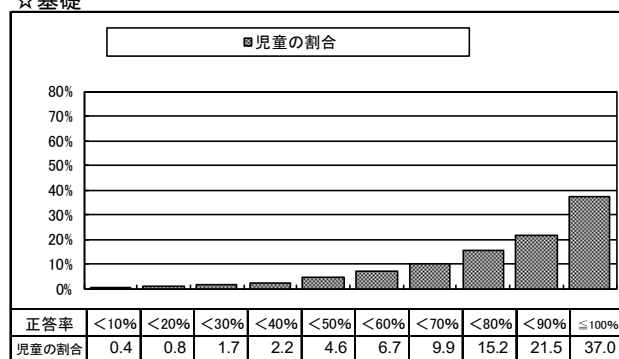
※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率であり、本市児童生徒の定着度を客観的に分析するための参考として示している。

#### ◆参考値と比較した本市正答率の状況

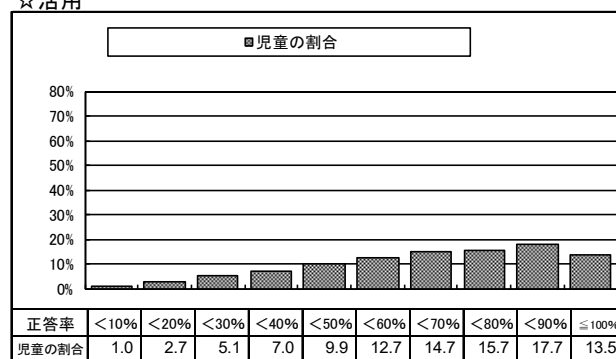
- ・基礎・活用別に参考値と比較すると、基礎問題は2.0ポイント、活用問題は9.1ポイント上回っている。
- ・領域別に参考値と比較すると、上回っている領域は、「データの活用」(+12.7ポイント)、「変化と関係」(+5.7ポイント)、「図形」(+4.0ポイント)。下回っている領域は、「数と計算」(-0.9ポイント)。
- ・観点別に参考値と比較すると、「知識・技能」は3.5ポイント、「思考・判断・表現」は6.1ポイント上回っている。

#### 【正答率度数分布】

##### ☆基礎



##### ☆活用



#### ◆基礎・活用別本市正答率の状況

- ・基礎問題において正答率が80%を超えている児童の割合は58.5%、正答率が50%未満の児童の割合は9.7%となっている。
- ・活用問題において正答率が50%を超えている児童の割合は74.3%となっている。

【設問内容及び設問別正答率】

問題番号			解答形式	出題のねらい	問題構成					宇都宮市正答率	参考値		
大問	中間	小問			基礎・活用	領域						観点	
						数と計算	図形	変化と関係	データの活用			知識・技能	思考・判断・表現
1	(1)	短答	小数第一位×小数第一位の計算ができる。	基礎	☆				◎		79.8	77.7	
	(2)	短答	小数第一位÷小数第一位＝小数第一位の計算ができる。	基礎	☆				◎		85.4	80.3	
	(3)	短答	異分母分数の減法(約分なし)の計算ができる。	基礎	☆				◎		75.5	79.0	
	(4)	短答	真分数×真分数(約分なし)の計算ができる。	基礎	☆				◎		88.6	92.7	
	(5)	短答	真分数÷真分数(約分2回)の計算ができる。	基礎	☆				◎		88.7	92.0	
2	(1)	選択	基準量が分数の場合において、分数倍の比較量を求めることができる。	基礎	☆				◎		61.5	66.3	
	(2)	選択	比較量、基準量が分数の場合において、比較量が基準量の何倍になるかを求める式を選ぶことができる。	基礎	☆				◎		62.0	69.0	
3	(1)	選択	小数の乗法の文章問題を表した図の構造をとらえている。	活用	☆				◎		83.8	78.5	
	(2)	短答	図を使って、小数の乗法の文章問題に合った式を立式している。	基礎	☆				◎		87.2	79.8	
4	(1)	短答	文字を使って、2つの数量の関係を1つの式に表している。	基礎	☆				◎		71.2	76.0	
	(2)	短答	2つの文字を使って表された式で、一方の文字の値から他方の文字の値を求めることができる。	基礎	☆				◎		71.5	73.6	
5	(1)	選択	ひし形の面積を求める式を理解している。	基礎		☆			◎		75.8	69.8	
	(2)	選択	半径が与えられた円の面積を求める式を理解している。	基礎		☆			◎		90.7	93.2	
	(3)	短答	底面積と高さから角柱の体積を求めることができる。	基礎		☆			◎		81.3	74.7	
6		短答	2つの角が与えられた三角形の1つの外角を求めることができる。	基礎		☆			◎		64.8	69.8	
7		選択	三角柱の展開図を組み立てたときに重なる頂点を理解している。	基礎		☆			◎		87.6	89.8	
8		短答	合同な三角形を作図することができる。	基礎		☆			◎		89.9	85.3	
9	(1)	選択	正方形の紙を二つ折りにし、切った後、開いてできる模様について理解している。	活用		☆			◎		90.3	88.7	
	(2)	選択	対称の中心について理解している。	基礎		☆			◎		94.4	89.8	
10		選択	表から面積と人数の割合を求め、どのプールが最も混んでいるかを考察している。	基礎			☆		◎		54.9	52.7	
11		選択	速さの単位の関係を理解し、分速を秒速や時速に直すことができる。	活用			☆		◎		54.3	47.5	
12		選択	百分率について理解し、割引後の値段を求める式を選ぶことができる。	活用			☆		◎		66.9	58.8	
13		選択	円グラフから割合を読み取ることができる。	基礎			☆		◎		90.1	70.2	
14	(1)	選択	表から平均を求めることができる。	基礎			☆		◎		85.8	79.7	
	(2)	選択	平均から全体の量を推測することができる。	基礎			☆		◎		50.5	34.2	
15	(1)	短答	ドットプロットから、最頻値と中央値を読み取ることができる。	活用			☆		◎		70.9	53.9	
	(2)	短答	度数分布表を完成させることができる。	活用			☆		◎		77.3	66.6	
	(3)	記述	ヒストグラムの特徴をもとに、平均値付近の記録がいちばん多いわけではないことを説明している。	活用			☆		◎		44.6	38.9	
16	(1)	記述	図に示された四角形の内角の和の求め方を説明している。	活用		☆			◎		37.8	22.6	
	(2)	選択	図に示された六角形の内角の和の求め方を表す式を選んでいる。	活用		☆			◎		71.9	60.2	

◆設問別分析

・大問 11「速さの単位の関係についての理解」：正答率 54.3%

分速 240m と同じ速さを表している選択肢を選ぶ問題である。誤答は各選択肢に分散しており、誤答の選択肢②が 20.2%、選択肢③が 11.5%、選択肢④が 13.5%見られた。秒速、分速、時速の意味を確認し、例えば分速 60m の速さとは、1 分間に 60m の長さを移動する速さであることから、「1 秒間に進む長さは何 m か」などと分かりやすい数字に置き換えて考えさせることで、速さの単位変換の習熟を図りたい。

・大問 15 (3)「ヒストグラムの特徴についての説明」：正答率 44.6%

ヒストグラムの特徴をもとに、平均値付近の記録が一番多いという考えが正しいといえるかどうかを選択するとともに、そのわけを記述する問題である。正答の「正しいとはいえない」を選択できているものの、わけを書いていないか間違えている誤答が 36.8%見られた。さまざまなデータの分布を比較する活動などを通して、分布の様子を的確にとらえる基礎的な力を高めることが大切である。

・大問 16 (1)「四角形の内角の和の求め方についての説明」：正答率 37.8%

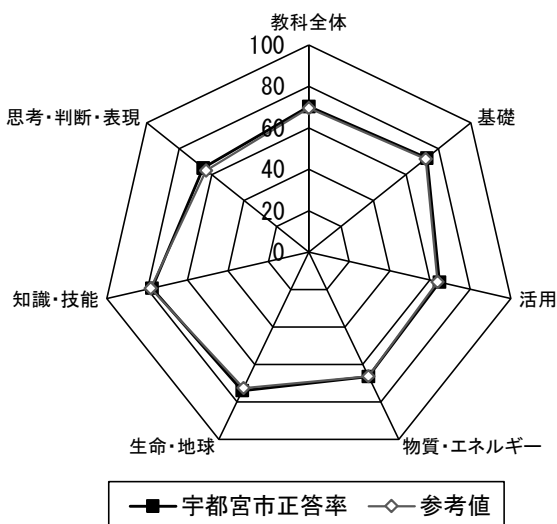
四角形を三つの三角形に分割した図をもとに、四角形の内角の和の求め方について、しおりさんの求め方に倣って説明する問題である。正答率が参考値を 15.2 ポイント上回るものの、無解答率は 14.2%と全設問中で最も高かった。図形の分割の仕方によって、図形の内部や辺の上にあるような余分な角を引く必要が生じる場合があることを理解させることが大切である。



#### 4) 小学校第6学年 理科

【カテゴリー別正答率】 (%)

		宇都宮市 正答率	参考値
教科全体		70.4	69.5
活用別	基礎	72.9	72.2
	活用	64.7	63.7
領域別	物質・エネルギー	66.5	66.3
	生命・地球	74.0	72.6
観点別	知識・技能	77.6	78.2
	思考・判断・表現	65.3	63.4
実施人数		3,929人	



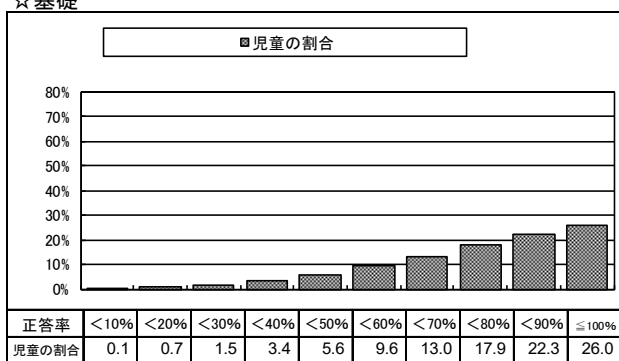
※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率であり、本市児童生徒の定着度を客観的に分析するための参考として示している。

#### ◆参考値と比較した本市正答率の状況

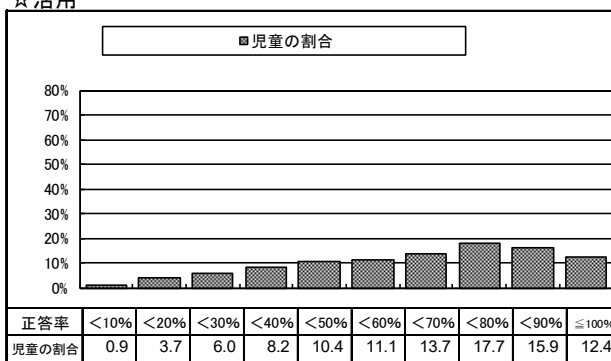
- ・基礎・活用別に参考値と比較すると、基礎問題は0.7ポイント、活用問題は1.0ポイント上回っている。
- ・領域別に参考値と比較すると、すべての領域で上回っている。「生命・地球」(+1.4ポイント)、「物質・エネルギー」(+0.2ポイント)。
- ・観点別に参考値と比較すると、「知識・技能」は0.6ポイント下回っており、「思考・判断・表現」は1.9ポイント上回っている。

【正答率度数分布】

##### ☆基礎



##### ☆活用



#### ◆基礎・活用別本市正答率の状況

- ・基礎問題において正答率が80%を超えている児童の割合は48.3%、正答率が50%未満の児童の割合は11.3%となっている。
- ・活用問題において正答率が50%を超えている児童の割合は70.8%となっている。

【設問内容及び設問別正答率】

問題番号			解答形式	出題のねらい	問題構成					宇都宮市正答率	参考値
大問	中間	小問			基礎・活用	領域		観点			
						物質・エネルギー	生命・地球	知識・技能	思考・判断・表現		
1	(1)		選択	台風の発生と進路について理解している。	基礎		☆	◎		78.6	77.2
	(2)		選択	台風の風による被害を指摘できる。	基礎		☆		◎	84.7	74.9
	(3)	①	選択	台風が上陸しやすい時期をもとに、ダムの水位を減らす時期を推測できる。	基礎		☆		◎	60.7	56.3
		②	記述	ダムの水位を減らしていても、台風の恵みによってダムに水をためることができることを説明できる。	活用		☆		◎	78.9	77.3
2	(1)		記述	振り子の周期は振り子の長さによって決まることを説明することができる。	活用	☆			◎	63.7	62.5
	(2)		選択	ふれはばを変えても振り子の周期は変わらないことがわかる。	活用	☆			◎	63.7	67.0
	(3)		短答	実験操作の誤りを説明することができる。	活用	☆			◎	62.1	62.8
3	(1)		選択	メスシリンダーで水を正しくはかりとることができる。正しい過の操作ができる。	基礎	☆		◎		74.9	74.0
	(2)		選択	ミョウバンの水溶液の重さを求めることができる。	基礎	☆		◎		72.9	72.1
	(3)		選択	ミョウバンが水に溶ける量について、グラフから読み取ることができる。	活用	☆			◎	60.6	58.0
4	(1)		短答	コイルについて理解している。	基礎	☆		◎		56.2	71.6
	(2)		記述	電磁石の性質をもとに、おもちゃの車が走るように改善する方法を記述できる。	活用	☆			◎	58.7	53.6
	(3)		選択	電磁石のはたらきが電流の大きさや導線の巻き数によることを理解し、おもちゃの車の走る距離を推測できる。	活用	☆			◎	69.8	70.9
5	(1)		選択	物の燃え方の実験の結果について検討し、改善できる。	活用	☆			◎	70.9	66.6
	(2)		選択	木が燃えたときの、かんの中の各気体の割合の変化について理解している。	基礎	☆		◎		87.8	89.4
6	(1)		選択	体温に近い温度が約何℃であるかを理解している。	基礎		☆	◎		77.0	87.0
	(2)		選択	だ液によって、でんぷんがどのように変化するかを推測できる。	基礎		☆		◎	76.1	79.8
	(3)		短答	消化について理解している。	基礎		☆	◎		60.8	63.6
7	(1)		選択	くきを縦に切ったときの断面のようすを理解している。	基礎		☆	◎		62.8	51.6
	(2)		選択	葉のついたホウセンカは蒸散により、かぶせた袋の中がくもることを理解している。	基礎		☆	◎		89.0	85.6
	(3)		短答	実験から対照実験の目的を指摘できる。	基礎		☆		◎	65.2	64.0
8	(1)		短答	野生のメダカが何を食べるかを理解している。	基礎		☆	◎		87.9	88.0
	(2)		選択	アメリカザリガニが水草を切ることによる影響を指摘できる。	活用		☆		◎	53.8	54.2
9	(1)		選択	水溶液を用いた実験を適切に行うことができる。	基礎	☆		◎		89.6	87.2
	(2)		選択	実験の結果から、水溶液の種類を特定できる。	基礎	☆			◎	67.4	65.2
	(3)		選択	未知の水溶液を特定する実験の方法を計画できる。	基礎	☆			◎	32.8	26.6
10	(1)		選択	何を太陽と月と地球に見立てているかを指摘できる。	基礎		☆	◎		93.9	91.2
	(2)		選択	太陽と月の位置関係から、月の形の見え方の違いを指摘できる。	基礎		☆		◎	80.7	75.6
	(3)		選択	月の形から、太陽がある方位と観察した時刻を指摘できる。	基礎		☆		◎	59.7	62.7

◆設問別分析

・大問4 (1)「コイルについての理解」：正答率 56.2%

導線を同じ方向に何度も巻いたものをコイルと答える問題である。正答率は参考値を 15.4 ポイント下回った。無解答率は 14.2%であった。誤答には、「導線」、「モーター」、「電磁石」などが見られた。身の回りでは、さまざまなモーターが利用されていることを日常生活と関連させて取り上げ、用語の定着を図ることが大切である。

・大問8 (2)「アメリカザリガニが水草を切ることによる影響についての考察」：正答率 53.8%

アメリカザリガニが水草を切ることによる生態系への影響として、正しくないものを選択する問題である。誤答は各選択肢に分散しており、誤答の選択肢①が 20.0%、選択肢②が 13.6%、選択肢④が 11.6%見られた。水草があることによってどのような利点があるのかを、多面的にとらえさせ、より妥当な考えをつくりだし、表現させることが大切である。

・大問9 (3)「未知の水溶液を特定する実験方法の発想」：正答率 32.8%

重曹水と食塩水を区別するための実験方法とその結果について、正しい組み合わせを選ぶ問題である。誤答の選択肢②が 38.7%と正答の割合を上回った。また、誤答の選択肢③が 23.4%見られた。さまざまな水溶液の性質と、水溶液に何が溶けているかを特定するための実験方法や、実験から得られる結果について、丁寧に確認し、科学的に解決する学習場面を設定することが大切である。

### (3) 中学校第3学年結果分析

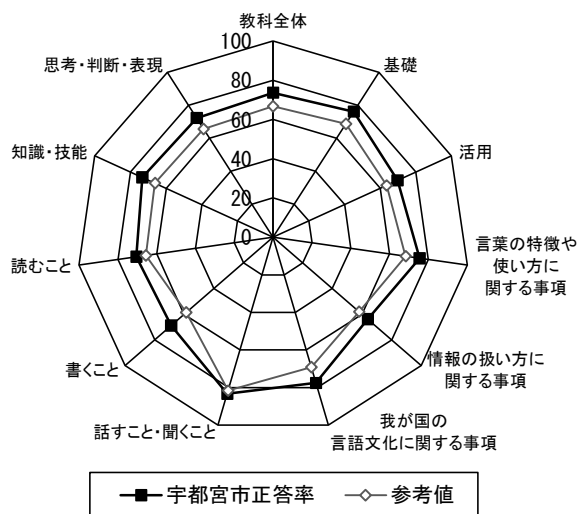
#### 1) 中学校第3学年 国語

【カテゴリー別正答率】

(%)

	宇都宮市 正答率	参考値
教科全体	73.7	66.8
活用別		
基礎	76.1	68.7
活用	69.7	63.5
領域別		
言葉の特徴や使い方に関する事項	75.4	68.3
情報の扱い方に関する事項	63.9	58.0
我が国の言語文化に関する事項	77.6	69.1
話すこと・聞くこと	83.2	81.6
書くこと	68.9	58.6
読むこと	70.5	65.7
観点別		
知識・技能	73.4	66.2
思考・判断・表現	72.2	65.6

実施人数 3,625人



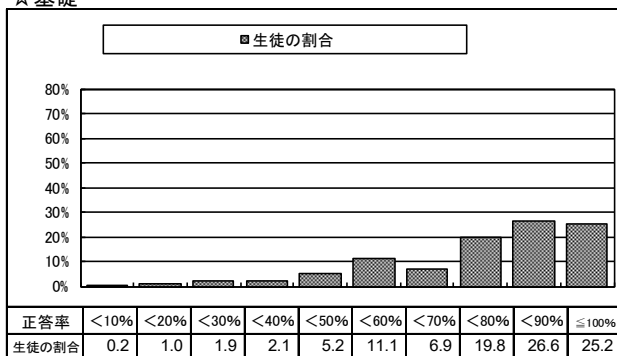
※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率であり、本市児童生徒の定着度を客観的に分析するための参考として示している。

#### ◆参考値と比較した本市正答率の状況

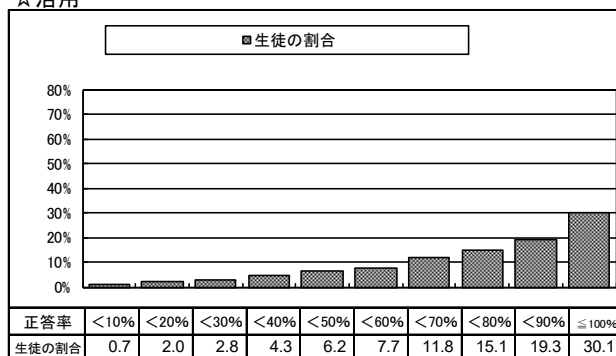
- ・基礎・活用別に参考値と比較すると、基礎問題は7.4ポイント、活用問題は6.2ポイント上回っている。
- ・領域別に参考値と比較すると、すべての領域で上回っている。「書くこと」(+10.3ポイント)、「我が国の言語文化に関する事項」(+8.5ポイント)、「言葉の特徴や使い方に関する事項」(+7.1ポイント)、「情報の扱い方に関する事項」(+5.9ポイント)、「読むこと」(+4.8ポイント)、「話すこと・聞くこと」(+1.6ポイント)。
- ・観点別に参考値と比較すると、「知識・技能」は7.2ポイント、「思考・判断・表現」は6.6ポイント上回っている。

【正答率度数分布】

##### ☆基礎



##### ☆活用



#### ◆基礎・活用別本市正答率の状況

- ・基礎問題において正答率が80%を超えている生徒の割合は51.8%、正答率が50%未満の生徒の割合は10.4%となっている。
- ・活用問題において正答率が50%を超えている生徒の割合は84.0%となっている。

【設問内容及び設問別正答率】

問題番号			解答形式	出題のねらい	問題構成							宇都宮市正答率	参考値		
大問	中間	小問			基礎・活用	領域					観点				
						方言葉に関する事項	情報の特徴や使い	情報の扱い方に関	我が国の言語文化	話すこと・聞くこ	書くこと			読むこと	知識・技能
1	(1)		選択	話の展開を予測しながら聞いている。	基礎				☆			◎	96.7	95.9	
	(2)		選択	自分の考えを明確にし、論理の展開を考えて話している。	基礎				☆			◎	80.1	79.4	
	(3)		記述	自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫している。	活用				☆			◎	72.8	69.4	
2	(1)	①	短答	第3学年までに学習した漢字を正しく読んでいる。	基礎	☆						◎	94.2	94.0	
		②	短答		基礎	☆							◎	67.9	62.4
		③	短答		基礎	☆							◎	57.2	36.1
	(2)	①	短答		基礎	☆							◎	76.8	71.3
		②	短答		基礎	☆							◎	77.1	70.0
		③	短答		基礎	☆							◎	85.7	78.8
3	(1)		選択	用言の活用について理解している。	基礎	☆						◎	52.6	48.1	
	(2)		選択	行書の特徴について理解している。	基礎			☆				◎	68.2	64.4	
	(3)	①	短答	歴史的仮名遣いについて理解している。	基礎			☆					◎	76.7	60.9
		②	短答	現代語訳を手掛かりに古典を読んでいる。	基礎			☆					◎	87.7	82.0
	(4)		選択	敬語について理解している。	活用	☆							◎	91.9	85.3
4	(1)		選択	論理の展開の仕方を捉えている。	基礎						☆		◎	68.2	61.0
	(2)		短答	情報と情報との関係について理解し、論理の展開の仕方を捉えている。	活用		☆				☆	◎	◎	79.8	72.1
	(3)		選択	文章の論理の展開について評価している。	基礎						☆		◎	57.8	53.9
5	(1)		選択	物語の展開の仕方を捉えている。	基礎						☆		◎	80.9	78.0
	(2)		短答	文章の表現の仕方について評価している。	活用						☆		◎	54.6	49.8
	(3)		選択	文章を読んで考えを広げたり深めたりしている。	活用						☆		◎	82.0	79.1
6	(1)		選択	情報と情報との関係について理解し、自分の考えが分かりやすく伝える文章になるように工夫している。	活用		☆			☆		◎	◎	72.6	68.7
	(2)		選択	目的や意図に応じた表現になっているかを確かめて、文章全体を整えている。	活用						☆		◎	69.7	62.8
	(3)		記述	情報と情報との関係について理解し、文章全体を整えている。	活用		☆				☆		◎	◎	39.2
7			記述	指定された長さで文章を書いている。	基礎						☆		◎	83.2	65.1
			記述	2段落構成で文章を書いている。	基礎						☆		◎	82.7	65.9
			記述	読み取った内容を明確にして書いている。	活用						☆		◎	53.0	48.3
			記述	自分の考えを明確にして書いている。	活用						☆		◎	81.7	66.4

◆設問別分析

・大問5 (2)「文章の表現の仕方について評価する」：正答率 54.6%

文学的な文章において、著者によって書き直された表現がどのような効果をもつか、空欄A・Bにあてはまるものを選ぶ問題である。誤答には、Aのみ正しいものが6.8%、Bのみ正しいものが8.6%見られた。登場人物の言動の意味などについて考え、内容を解釈する力を高めることが必要である。表現の効果について考え、内容を解釈させる際には、取り上げた表現が話の展開などにどのように関わっているかを考えさせるような発問を工夫することが大切である。

・大問6 (3)「情報と情報との関係について理解し、文章全体を整える」：正答率 39.2%

ちらしの下書きの文章を、〈佐藤さんの考え〉と〈資料〉をもとにして、条件に沿って書き直す問題である。無解答率は18.7%と全設問中で最も高かった。〈資料〉をもとにして、節水の方法を具体的に二つ、解答用紙の書き出しの言葉に続けて書いているが、ちらしの下書きのグラフの数値を挙げて根拠を書いていない誤答が32.1%見られた。目的に応じて複数の情報を関係付けて考えたり書いたりする学習を取り入れることが大切である。

・大問7「文章を書く」(読み取った内容を明確にして書く)：正答率 53.0%

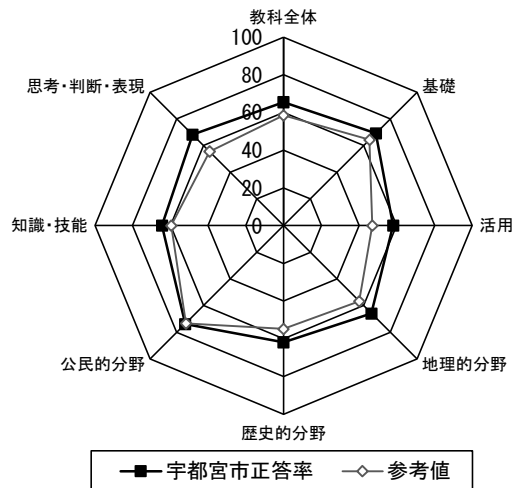
グラフから読み取ったことを、数値を挙げて書くことが求められている。無解答率は9.1%であった。グラフから読み取ったことを書いているが、数値を挙げて書いていない誤答が19.8%見られた。説得力を増すために文章や図表を結び付けて情報を読み取り、読み取った情報が自分の考えを支えるものであるかどうかを検討し、考えや意見の根拠となることを具体的に記述する力を養いたい。

## 2) 中学校第3学年 社会

【カテゴリー別正答率】 (%)

	宇都宮市 正答率	参考値
教科全体	65.5	58.4
活用別		
基礎	69.2	64.4
活用	58.2	47.0
領域別		
地理的分野	65.7	56.7
歴史的分野	61.7	54.8
公民的分野	73.8	73.3
観点別		
知識・技能	64.5	59.5
思考・判断・表現	68.2	55.6

実施人数 3,622人



※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率であり、本市児童生徒の定着度を客観的に分析するための参考として示している。

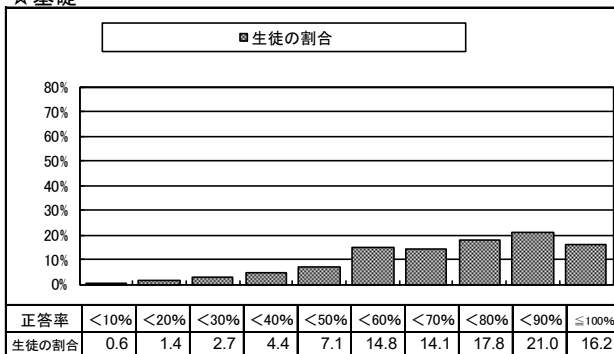
※社会については、出題した設問の中に本市独自の設問もあり、「参考値」がすべての設問に対応した値ではない。

### ◆参考値と比較した本市正答率の状況

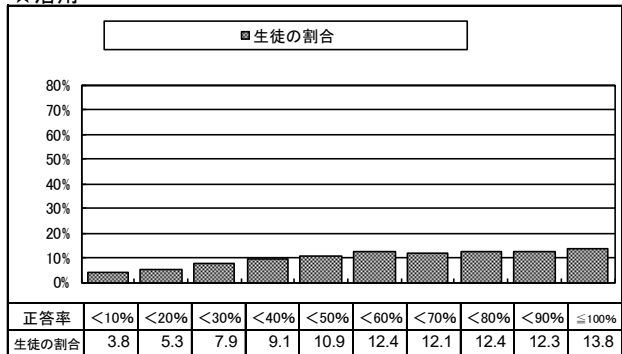
- ・基礎・活用別に参考値と比較すると、基礎問題は4.8ポイント、活用問題は11.2ポイント上回っている。
- ・領域別に参考値と比較すると、すべての領域で上回っている。「地理的分野」(+9.0ポイント)、「歴史的分野」(+6.9ポイント)、「公民的分野」(+0.5ポイント)。
- ・観点別に参考値と比較すると、「知識・技能」は5.0ポイント、「思考・判断・表現」は12.6ポイント上回っている。

【正答率度数分布】

#### ☆基礎



#### ☆活用



### ◆基礎・活用別本市正答率の状況

- ・基礎問題において正答率が80%を超えている生徒の割合は37.2%、正答率が50%未満の生徒の割合は16.2%となっている。
- ・活用問題において正答率が50%を超えている生徒の割合は63.0%となっている。

【設問内容及び設問別正答率】

問題番号			解答形式	出題のねらい	問題構成					宇都宮市正答率	参考値	
大問	中間	小問			基礎・活用	領域			観点			
						地理的分野	歴史的分野	公民的分野	知識・技能			思考・判断・表現
1	(1)		選択	大陸の分布と世界の地域区分について理解している。	基礎	☆			◎		89.2	83.5
	(2)		短答	インド洋の位置と名称について理解している。	基礎	☆			◎		79.0	71.7
	(3)		選択	緯度と経度についての理解をもとに、地図を読み取っている。	活用	☆			◎		70.9	61.9
2	(1)		選択	日本の地形の特色について理解している。	基礎	☆			◎		72.4	64.0
	(2)		選択	日本の工業の特色について、産業の空洞化に関する理解をもとに資料に着目して考察している。	活用	☆				◎	56.8	39.6
	(3)		選択	日本の交通網の特色についての理解をもとに、資料を読み取っている。	活用	☆			◎		51.5	45.6
3	(1)		短答	中国・四国地方の気候の特色について理解している。	基礎	☆			◎		62.8	59.2
	(2)		選択	近畿地方の歴史的景観の保全について、まとめの内容をもとに考察している。	基礎	☆				◎	94.4	83.4
	(3)		記述	九州地方の農業の特色について、資料に着目して考察し、表現している。	活用	☆				◎	52.5	29.8
	(4)		選択	九州、中国・四国、近畿地方にある地域の特色について理解している。	基礎	☆			◎		75.0	71.7
	(5)		選択	九州、中国・四国、近畿地方の工業の特色について理解している。	基礎	☆			◎		49.7	39.5
4	(1)	①	選択	年代の表し方について理解している。	基礎		☆		◎		51.0	52.5
		②	選択	世界の古代文明(エジプト文明)について理解している。	基礎		☆		◎		69.5	57.5
	(2)		短答	狩猟・採集を行っていた人々の生活について理解している。	基礎	☆			◎		86.9	80.3
	(3)		選択	農耕の広まりによる生活の変化について、資料をもとに考察している。	基礎	☆				◎	86.6	80.9
	(4)		短答	渡来人について理解している。	基礎	☆			◎		80.6	71.4
	(5)		選択	ヤマト王権による統一の様子について、資料を読み取っている。	基礎	☆			◎		77.2	65.0
5	(1)	①	選択	江戸時代の幕藩体制について資料を読み取っている。	基礎		☆		◎		28.1	26.1
		②	選択	江戸幕府の大名統制について、資料に着目して考察している。	活用		☆			◎	73.5	59.9
	(2)		選択	江戸幕府の対外関係について、琉球の役割について理解している。	基礎		☆		◎		56.9	51.0
		①	選択	江戸幕府の仕組みについて理解している。	基礎		☆		◎		76.4	72.7
	(3)	②	選択	江戸幕府の政治改革について理解している。	基礎		☆		◎		54.4	44.7
		③	短答	打ちこわしについて理解している。	基礎		☆		◎		29.5	39.0
	(4)		選択	三都の繁栄や海運の発達についての理解をもとに、資料に着目して考察している。	活用		☆		◎		53.0	33.1
6	(1)		選択	日本の産業の特色について、複数の資料を読み取っている。	活用	☆			◎		43.9	41.0
	(2)		記述	日本の各地方の産業について、複数の資料をもとに考察し、表現している。	活用	☆				◎	56.5	45.7
	(3)		選択	近世・近代の歴史についての理解をもとに、複数の資料を読み取っている。	活用		☆		◎		40.8	32.9
7	(1)		選択	物事の採決の仕方について判断することができる。	活用			☆		◎	80.7	64.3
	(2)		選択	日本の高齢社会について、資料を読み取ることができる。	基礎			☆	◎		77.6	63.9
8	(1)		選択	フランス人権宣言の主な内容を理解している。	基礎			☆	◎		89.3	91.7
	(2)		選択	憲法改正の手続きについて理解している。	基礎			☆	◎		53.0	—
	(3)		記述	公共の福祉について、資料を参考にし、自分の言葉で表現することができる。	活用			☆		◎	59.9	63.8
	(4)		選択	新しい人権について理解している。	基礎			☆	◎		82.2	82.6

◆設問別分析

・大問5(1)①「江戸時代の幕藩体制についての資料の読み取り」：正答率 28.1%

江戸時代の幕藩体制についてのまとめの空欄 a, b にあてはまる数字の組み合わせを選ぶ問題である。誤答は各選択肢に分散しており、誤答の選択肢④が 33.5%と正答の割合を上回った。また、誤答の選択肢①が 12.8%、選択肢②が 25.0%見られた。授業では、社会的事象をさまざまな角度からとらえることができるよう、複数の資料から必要な情報を読み取る学習活動を充実させることが大切である。

・大問5(3)③「打ちこわしについての理解」：正答率 29.5%

資料をもとに、天明の飢饉によって都市で起こった出来事の名称を答える問題である。正答率は参考値を 9.5 ポイント下回った。無解答率は 9.5%であった。「百姓一揆」と答えた誤答が 3.4%見られた。授業では、都市や農村のそれぞれの変化を表した資料の読み取りをもとに、近世社会の基礎が動揺していった様子をとらえることができるよう、指導を工夫することが大切である。

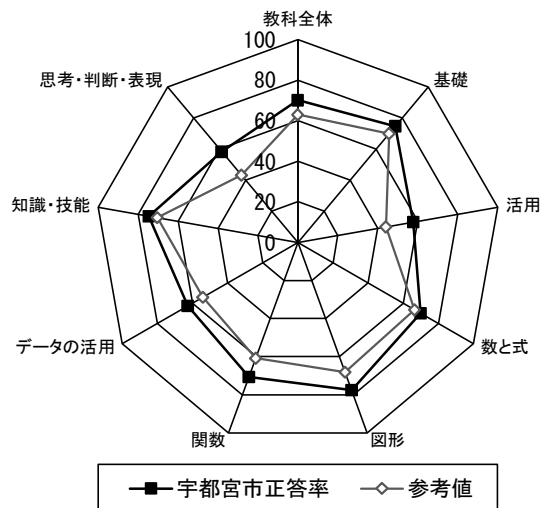
・大問8(3)「公共の福祉について説明する」：正答率 59.9%

基本的人権に制限を与える法律が制定される理由を「侵害」という語句を使って説明する問題である。正答率は参考値を 3.9 ポイント下回った。無解答率は 20.5%と全設問中で最も高かった。基本的な概念の解釈が的確になるよう、知識や技能を活用して説明する機会を充実させることが大切である。

### 3) 中学校第3学年 数学

【カテゴリー別正答率】 (%)

	宇都宮市 正答率	参考値
教科全体	70.2	63.0
基礎 活用別	基礎	70.0
	活用	44.1
領域別	数と式	66.4
	図形	68.1
	関数	60.8
	データの活用	54.2
観点別	知識・技能	70.3
	思考・判断・表現	43.3
実施人数		3,621人



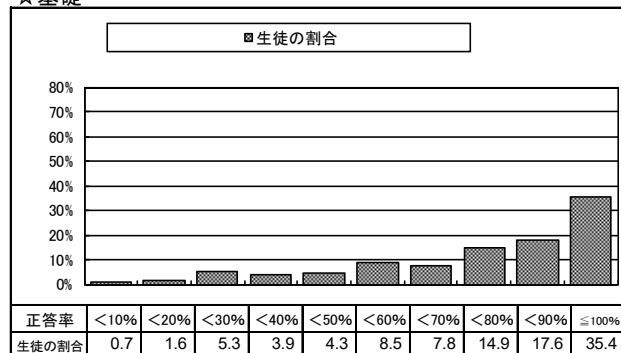
※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率であり、本市児童生徒の定着度を客観的に分析するための参考として示している。

#### ◆参考値と比較した本市正答率の状況

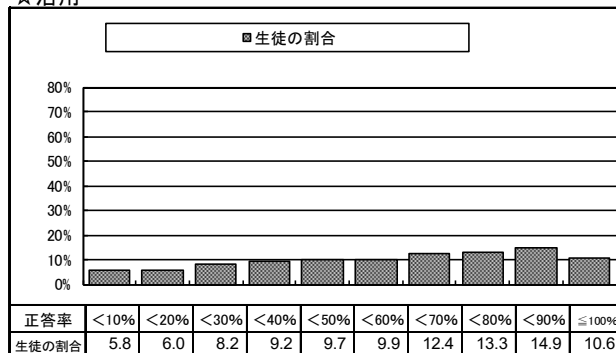
- ・基礎・活用別に参考値と比較すると、基礎問題は4.8ポイント、活用問題は13.7ポイント上回っている。
- ・領域別に参考値と比較すると、すべての領域で上回っている。「関数」(+9.8ポイント)、「図形」(+9.3ポイント)、「データの活用」(+8.5ポイント)、「数と式」(+3.5ポイント)。
- ・観点別に参考値と比較すると、「知識・技能」は4.3ポイント、「思考・判断・表現」は15.1ポイント上回っている。

【正答率度数分布】

#### ☆基礎



#### ☆活用



#### ◆基礎・活用別本市正答率の状況

- ・基礎問題において正答率が80%を超えている生徒の割合は53.0%、正答率が50%未満の生徒の割合は15.8%となっている。
- ・活用問題において正答率が50%を超えている生徒の割合は61.1%となっている。

【設問内容及び設問別正答率】

問題番号			解答形式	出題のねらい	問題構成					宇都宮市正答率	参考値	
大問	中間	小問			基礎・活用	領域			観点			
						数と式	図形	関数	データの活用			知識・技能
1	(1)	短答	正負の数の減法ができる。	基礎	☆				◎	90.9	83.3	
	(2)	短答	正負の数の乗法ができる。	基礎	☆				◎	96.0	82.7	
	(3)	短答	1次式の加法ができる。	基礎	☆				◎	89.3	76.6	
2		記述	連続する3つの整数を文字式で表すことができる。	活用	☆				◎	52.7	37.7	
3	(1)	短答	$(x-a)^2$ の公式を使った展開をすることができる。	基礎	☆				◎	81.8	83.3	
	(2)	短答	乗法の公式を使って式を簡単にすることができる。	基礎	☆				◎	59.3	70.8	
4		選択	平方根の大小について理解している。	基礎	☆				◎	63.0	67.9	
5	(1)	短答	根号をふくむ式の除法ができる。	基礎	☆				◎	75.1	76.0	
	(2)	短答	根号をふくむ式の減法ができる。	基礎	☆				◎	47.6	47.4	
6	(1)	短答	加減法で連立方程式を解くことができる。	基礎	☆				◎	78.8	74.2	
	(2)	短答	$(x+m)^2=n$ の形の二次方程式を解くことができる。	基礎	☆				◎	54.0	60.4	
7		短答	与えられた文章問題に対して、適切な連立方程式を立式することができる。	活用	☆				◎	49.9	36.4	
8		選択	比例の関係での、 $x$ 、 $y$ の値の変化の関係について理解している。	基礎		☆			◎	64.7	62.3	
9	(1)	選択	比例の表から、 $x$ と $y$ の関係を表した式を選ぶことができる。	基礎		☆			◎	88.0	79.8	
	(2)	選択	1次関数のグラフから、式を求めることができる。	基礎		☆			◎	76.8	76.4	
	(3)	選択	$y=ax^2$ の式について変化の割合を求めることができる。	基礎		☆			◎	75.1	76.9	
	(4)	短答	問題の条件に合う点の座標を求めることができる。	活用		☆			◎	48.4	48.7	
10		短答	ある1次関数の $x$ 軸、 $y$ 軸との交点からできる三角形について、面積を求めることができる。	基礎		☆			◎	60.4	36.8	
11	(1)	短答	四分位範囲の大小を比較することができる。	基礎			☆		◎	73.4	71.2	
	(2)	記述	箱ひげ図から読み取れるものを判断することができる。	活用			☆		◎	51.5	31.8	
12	(1)	選択	6本のくじから1本をひくときの確率を求めることができる。	基礎			☆		◎	86.5	85.2	
	(2)	選択	4枚のカードから2枚取り出して2けたの整数をつくるときの確率を求めることができる。	基礎			☆		◎	69.4	60.6	
13		短答	線分の中点を、垂直二等分線を作図することによって作図することができる。	基礎		☆			◎	71.3	66.7	
14		選択	おうぎ形の面積を求めることができる。	基礎		☆			◎	72.4	62.0	
15	(1)	選択	直方体の直線の位置関係について理解している。	基礎		☆			◎	79.9	74.1	
	(2)	選択	平行移動した距離について理解している。	基礎		☆			◎	84.4	80.7	
16	(1)	選択	証明の仮定が問題文のどの内容を指しているかを理解している。	基礎		☆			◎	77.9	57.1	
	(2)	選択	与えられたことから、正しい三角形の合同条件を判断し、証明を完成させることができる。	基礎		☆			◎	78.7	68.3	
17	(1)	短答	比例の関係を読み取り、ある $y$ の値における $x$ の値を求めることができる。	活用			☆		◎	83.8	68.3	
	(2)	短答	具体的な事象について、与えられた数値に対応する答えを求めることができる。	活用			☆		◎	78.7	61.0	
	(3)	記述	料金が安くなる店を判断するために、グラフをどのように読み取ればよいかを説明し、適切な店を判断することができる。	活用			☆		◎	59.8	36.8	
18	(1)	選択	平均値がふくまれる階級の階級値を考えることができる。	活用			☆		◎	55.2	44.3	
	(2)	記述	度数折れ線を読み取り、その特徴をもとに説明することができる。	活用			☆		◎	40.4	31.8	

◆設問別分析

・大問3(2)「乗法公式」：正答率 59.3%

乗法公式を使って式を簡単にする問題である。正答率は参考値を 11.5 ポイント下回った。乗法公式を用いた式の展開や因数分解については、演算記号の処理など、式を変形する際の基本的な手順のポイントを押さえた指導を行うことが大切である。

・大問9(4)「 $x$ の2乗に比例する関数」：正答率 48.4%

$x$ の2乗に比例する関数のグラフをもとに、条件に合う点の座標を求める問題である。無解答率は 21.8%であった。グラフ上の座標の表し方や、座標が示す座標軸までの距離、二つのグラフの交点の求め方等について、繰り返し確認しながら指導することが大切である。

・大問18(2)「度数折れ線の特徴の説明」：正答率 40.4%

度数折れ線を読み取り、その特徴をもとに、晴子さんのように考えることができる理由を説明する問題である。正答率が参考値を 8.6 ポイント上回るものの、無解答率は 26.8%と全設問中で最も高かった。表やグラフを関連付け、用語を適切に用いて他者に説明するような活動を通して、度数折れ線の読み取り方の理解を促す指導を行うことが大切である。

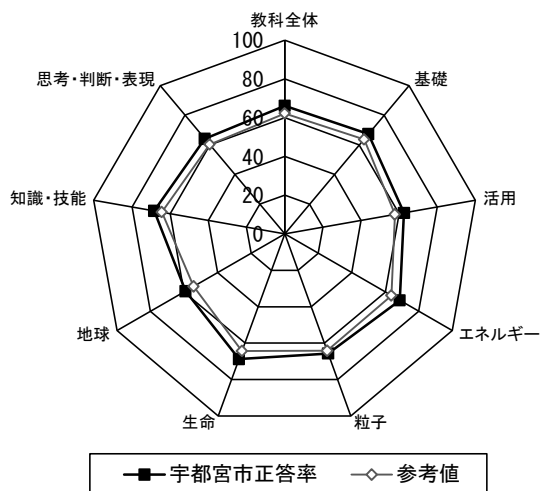


#### 4) 中学校第3学年 理科

【カテゴリー別正答率】 (%)

	宇都宮市 正答率	参考値
教科全体	66.1	62.3
活用別・基礎	67.3	63.7
活用別・活用	62.6	57.8
領域別・エネルギー	68.7	63.6
領域別・粒子	65.7	64.2
領域別・生命	68.9	64.4
領域別・地球	59.2	54.3
観点別・知識・技能	68.4	64.4
観点別・思考・判断・表現	64.2	60.3

実施人数 3,628人



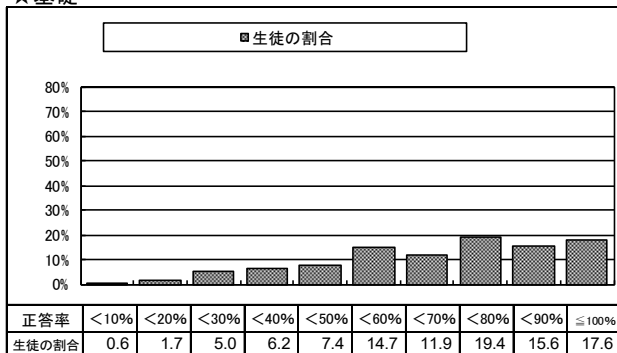
※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率であり、本市児童生徒の定着度を客観的に分析するための参考として示している。

#### ◆参考値と比較した本市正答率の状況

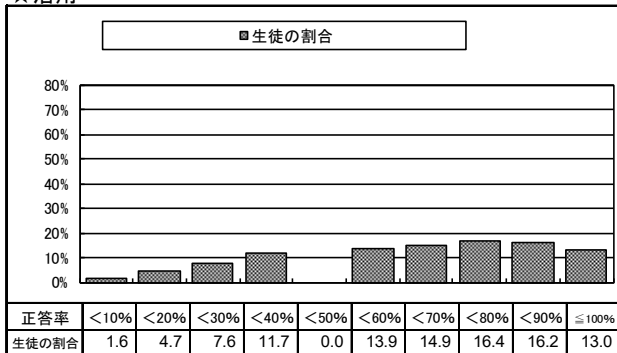
- ・基礎・活用別に参考値と比較すると、基礎問題は3.6ポイント、活用問題は4.8ポイント上回っている。
- ・領域別に参考値と比較すると、すべての領域で上回っている。「エネルギー」(+5.1ポイント)、「地球」(+4.9ポイント)、「生命」(+4.5ポイント)、「粒子」(+1.5ポイント)。
- ・観点別に参考値と比較すると、「知識・技能」は4.0ポイント、「思考・判断・表現」は3.9ポイント上回っている。

#### 【正答率度数分布】

##### ☆基礎



##### ☆活用



※活用は設問数が8問と少ないため、正答率40%~50%未満の生徒の割合が低くなっている。

#### ◆基礎・活用別本市正答率の状況

- ・基礎問題において正答率が80%を超えている生徒の割合は33.2%、正答率が50%未満の生徒の割合は20.9%となっている。
- ・活用問題において正答率が50%を超えている生徒の割合は74.4%となっている。

【設問内容及び設問別正答率】

問題番号			解答形式	出題のねらい	問題構成						宇都宮市正答率	参考値	
大問	中間	小問			基礎・活用	領域				観点			
						エネルギー	粒子	生命	地球	知識・技能			思考・判断・表現
1	(1)	選択	ルーペの使い方を身に付けている。	基礎			☆		◎		81.0	77.7	
	(2)	選択	エンドウの花のつくりについて理解している。	基礎			☆		◎		73.8	73.1	
	(3)	短答	胚珠が種子になることを理解している。	基礎			☆		◎		69.8	52.3	
2	(1)	記述	液体を加熱するとき、沸騰石を入れておく理由を説明できる。	活用		☆			◎		74.1	71.9	
	(2)	選択	最も多くエタノールがふくまれている液体を指摘できる。	基礎		☆			◎		66.4	57.1	
	(3)	選択	液体を加熱して沸騰させ、出てくる気体を冷やして再び液体にして集めることを、「蒸留」ということを理解している。	基礎		☆			◎		77.0	68.9	
3	(1)	選択	容器から空気をぬいていったときのプザーの音の大きさとテープのようすを推測できる。	基礎	☆				◎		72.8	65.0	
	(2)	短答	音を伝えているものは空気であることを指摘できる。	基礎	☆				◎		88.2	81.3	
4	(1)	選択	火山の形からマグマの特徴や噴火のようすを推測できる。	基礎				☆	◎		72.3	68.4	
	(2)	選択	花こう岩にはなく安山岩にだけ見られる特徴を理解している。	基礎				☆	◎		75.4	62.2	
	(3)	選択	御影石(花こう岩)がとれる採石場が、どのようにしてできたかを推測できる。	活用				☆	◎		58.9	50.6	
5	(1)	選択	対照実験に用いる実験の条件を推測できる。	基礎			☆		◎		62.3	63.3	
	(2)	選択	実験の結果から、だ液のはたらきについて考察することができる。	活用			☆		◎		54.5	46.2	
	(3)	短答	だ液にふくまれているデンプンを分解する酵素を、「アミラーゼ」ということを理解している。	基礎			☆		◎		70.4	59.7	
6	(1)	選択	水を電気分解したときのようすを推測できる。	基礎		☆			◎		43.9	41.0	
	(2)	選択	水の電気分解によって陰極側に水素が生じたことを確かめる実験を構想できる。	活用		☆			◎		90.1	83.2	
	(3)	短答	分解について理解している。	基礎		☆			◎		48.7	59.7	
7	(1)	選択	磁界の向きについて理解している。	基礎	☆				◎		48.5	42.5	
	(2)	記述	磁界の向きを変える方法を説明できる。	活用	☆				◎		62.9	58.4	
	(3)	選択	磁力線のようすについて推測できる。	基礎	☆				◎		72.3	73.5	
8	(1)	選択	気温、湿度、気圧の観測記録について指摘できる。	基礎				☆	◎		56.7	52.2	
	(2)	選択	前線の断面のようすを理解している。	基礎				☆	◎		41.2	47.8	
	(3)	選択	観測記録と天気図から、観測地点を推測できる。	活用				☆	◎		50.6	44.5	
9	(1)	選択	卵、精子、体細胞の染色体数について推測できる。	活用			☆		◎		47.9	47.2	
	(2)	短答	胚の成長の順序を理解している。	基礎			☆		◎		87.3	86.5	
	(3)	短答	無性生殖について理解している。	基礎			☆		◎		72.9	74.0	
10	(1)	選択	電流が流れる水溶液を指摘できる。	基礎		☆			◎		55.0	61.3	
	(2)	短答	水にこかしたときに電流が流れる物質を、「電解質」ということを理解している。	基礎		☆			◎		78.3	84.7	
	(3)	選択	塩化銅水溶液の電気分解によって発生する気体の性質を理解している。	基礎		☆			◎		58.1	50.1	
11	(1)	選択	紙テープのはじめの部分を使用しない理由を理解している。	基礎	☆				◎		80.8	79.0	
	(2)	短答	テープの長さから、そのテープが記録されたときの台車の平均の速さを求めることができる。	基礎	☆				◎		62.1	48.6	
	(3)	選択	実験の結果から、斜面の角度を小さくすると、台車の速さのふえ方が小さくなることを推測できる。	活用	☆				◎		61.7	60.6	

◆設問別分析

・大問6(3)「分解についての理解」：正答率 48.7%

水が2種類の気体に分かれる反応の名称を答える問題である。正答率は参考値を11.0ポイント下回った。無解答率は7.9%であった。さまざまな化学変化と代表的な実験について整理させ、用語の定着を図るとともに、物質の変化についての理解の定着を図ることが大切である。

・大問7(2)「磁界の向きを変える方法の説明」：正答率 62.9%

磁界の向きを変える方法について説明する問題である。無解答率は19.9%と全設問中で最も高かった。エナメル線のまわりに生じる磁界について確認させるとともに、観察、実験を通して、電流と磁界の関係性や規則性を見いだして表現させることが大切である。

・大問8(2)「前線の断面の様子についての理解」：正答率 41.2%

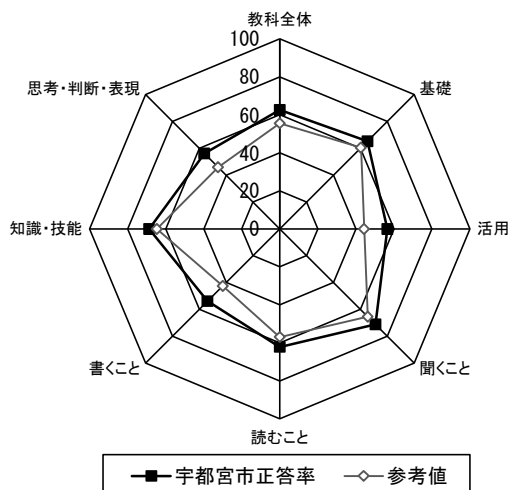
前線の断面の様子について、正しい図を選ぶ問題である。誤答は各選択肢に分散しており、誤答の選択肢①が24.0%、選択肢③が20.6%、選択肢④が13.6%見られた。前線付近の暖気、寒気のぶつかり合いを表すモデル実験などの方法を工夫して、前線の構造についての理解を深めることが大切である。

## 5) 中学校第3学年 英語

【カテゴリー別正答率】 (%)

	宇都宮市 正答率	参考値
教科全体	62.6	55.6
活基礎別・活用	65.2	60.4
活用	56.6	44.4
領域別		
聞くこと	71.2	65.4
読むこと	62.1	56.9
書くこと	53.8	42.5
観点別		
知識・技能	68.8	64.7
思考・判断・表現	56.1	45.8

実施人数 3,632人



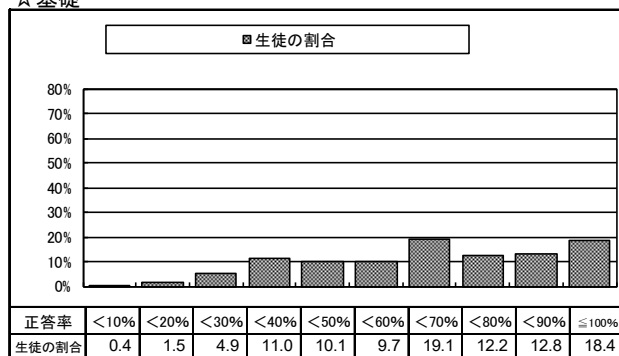
※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率であり、本市児童生徒の定着度を客観的に分析するための参考として示している。

### ◆参考値と比較した本市正答率の状況

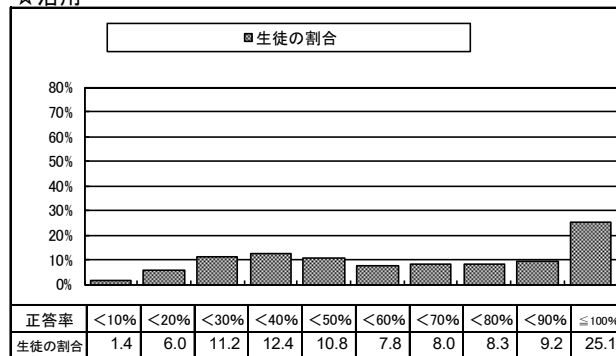
- ・基礎・活用別に参考値と比較すると、基礎問題は4.8ポイント、活用問題は12.2ポイント上回っている。
- ・領域別に参考値と比較すると、すべての領域で上回っている。「書くこと」(+11.3ポイント)、「聞くこと」(+5.8ポイント)、「読むこと」(+5.2ポイント)。
- ・観点別に参考値と比較すると、「知識・技能」は4.1ポイント、「思考・判断・表現」は10.3ポイント上回っている。

【正答率度数分布】

#### ☆基礎



#### ☆活用



### ◆基礎・活用別本市正答率の状況

- ・基礎問題において正答率が80%を超えている生徒の割合は31.2%、正答率が50%未満の生徒の割合は27.9%となっている。
- ・活用問題において正答率が50%を超えている生徒の割合は58.4%となっている。

【設問内容及び設問別正答率】

問題番号			解答形式	出題のねらい	問題構成					宇都宮市正答率	参考値	
大問	中問	小問			基礎・活用	領域			観点			
						聞くこと	読むこと	書くこと	知識・技能			思考・判断・表現
1	(1)		選択	英文を聞き、その内容を理解している。(人物の説明)	基礎	☆			◎		61.3	62.6
	(2)		選択	英文を聞き、その内容を理解している。(動物の説明)	基礎	☆			◎		75.3	70.6
	(3)		選択	英文を聞き、その内容を理解している。(人物の説明)	基礎	☆			◎		73.2	69.2
	(4)		選択	英文を聞き、その内容を理解している。(人物の説明)	基礎	☆			◎		95.8	96.5
2	(1)		選択	対話を聞き、対話の概要を捉えて適切に回答している。(自分にとって英語は難しいと言われて)	基礎	☆			◎		57.9	52.7
	(2)		選択	対話を聞き、対話の概要を捉えて適切に回答している。(見せてくれないかと頼まれて)	基礎	☆			◎		83.6	77.4
	(3)		選択	対話を聞き、対話の概要を捉えて適切に回答している。(とてもわくわくしているとわかれて)	基礎	☆			◎		65.4	56.9
3			選択	日常的な話題について聞き、概要を捉えている。	基礎	☆			◎		60.5	53.6
4			選択	日常的な話題について聞き、必要な情報を把握している。	活用	☆			◎		90.2	82.9
5			記述	英文を聞き、その要点を捉えて自分の考えを英文で答えている。	活用	☆			◎		49.0	31.9
6	(1)	①	選択	対話文を読み、文構造や文法事項を理解している。(現在完了(継続))	基礎		☆		◎		61.6	81.4
		②	選択	対話文を読み、文構造や文法事項を理解している。(want+人+to不定詞を用いた文)	基礎		☆		◎		76.0	76.3
		③	選択	対話文を読み、文構造や文法事項を理解している。(疑問詞+to不定詞)	基礎		☆		◎		72.9	73.6
		④	選択	対話文を読み、文構造や文法事項を理解している。(受け身)	基礎		☆		◎		48.4	60.7
	(2)	①	選択	対話文の情報を読み取り、その内容を理解している。	基礎		☆		◎		75.2	67.7
		②	選択	対話文の情報を読み取り、その内容を理解している。	基礎		☆		◎		79.9	67.5
7	(1)		選択	英文を読み、概要を捉えて適切なスライドを選んでいる。	活用		☆		◎		65.7	54.2
	(2)		選択	英文を読み、要点を捉えて適切なものを選んでいる。	活用		☆		◎		63.4	63.9
	(3)	①	選択	対話を読み、対話の流れと予定表から、必要な情報を把握して文脈に応じた内容を判断している。	活用		☆		◎		56.1	43.1
		②	選択	対話を読み、対話の流れと予定表から、必要な情報を把握して人物の適切な発言を選んでいる。	活用		☆		◎		72.4	58.4
8	(1)		選択	メールを読み、代名詞の内容を理解している。	基礎		☆		◎		79.8	70.8
	(2)		選択	メールを読み、その内容を理解している。	基礎		☆		◎		42.4	28.4
	(3)		選択	メールを読み、その内容を理解している。	基礎		☆		◎		48.3	35.7
	(4)		短答	メールを読み、その概要を捉えて英文を完成させている。	活用		☆		◎		27.7	15.3
9	(1)		短答	文の語順を理解し、正確に書いている。(be going to ~の疑問文)	基礎			☆	◎		69.2	64.3
	(2)		短答	文の語順を理解し、正確に書いている。(形容詞的用法の不定詞)	基礎			☆	◎		44.6	32.4
	(3)		短答	文の語順を理解し、正確に書いている。(過去進行形)	基礎			☆	◎		84.6	74.2
	(4)		短答	文の語順を理解し、正確に書いている。(SVOOの文)	基礎			☆	◎		80.5	68.6
10	(1)		記述	対話の流れに合った英文を、相手に伝えるように書いている。(what timeを使って時刻をきく)	基礎			☆	◎		26.7	19.9
	(2)		記述	対話の流れに合った英文を、相手に伝えるように書いている。(whyを使って目的をきく)	基礎			☆	◎		36.7	28.5
11			記述	スマートフォンの使用に対する考えや意見を、相手に伝えるように書いている。	活用			☆	◎		50.5	35.8
			記述	スマートフォンの使用に対する考えや意見の理由や説明を、相手に伝えるように書いている。	活用			☆	◎		45.5	30.8
			記述	スマートフォンの使用に対する考えや意見を、まとまった内容で、相手に伝えるように書いている。	活用			☆	◎		46.0	28.0

◆設問別分析

・大問6(1)①「語形・語法の知識・理解(現在完了(継続))」: 正答率 61.6%

対話文が成り立つように、空欄に入る適切な語句を選ぶ問題(現在完了(継続))である。正答率は参考値を19.8ポイント下回った。誤答の選択肢②(三単現)が13.1%、選択肢④(進行形)が17.2%見られた。音声面の練習後に書く活動に取り組ませ、表現が定着したかを確認することが大切である。

・大問8(4)「長文の読み取り」: 正答率 27.7%

メールを読み、その概要をとらえて英文を完成させる問題である。無解答率は30.7%と全設問中で最も高かった。リーディングの際には、課題や目的を明確にすることで読む視点を与え、把握すべき内容にあたる部分に注目させるなどの活動に取り組ませ、概要や要点を読み取らせることが大切である。

・大問10(1)「場面に応じて書く英作文(what timeを使って時刻をたずねる)」: 正答率 26.7%

対話の流れに合った疑問文を書く問題である。無解答率は23.8%であった。空欄の直後の文に含まれる“at four thirty”から推測して、「何時に起きるのか」をたずねればよいことに気付かせたい。音声面で表現に慣れた後に英作文を書く練習を繰り返し積み重ねることが大切である。

## (4) 指導の工夫・改善

### 小学校第6学年 国語

#### ◆基礎・活用問題に関わる考察

正答率は、基礎問題は 74.5%、活用問題は 62.8%となっており、参考値との差は、それぞれ、-1.0ポイント、-1.7ポイントとなっている。

基礎・活用問題の本市正答率がともに参考値を下回っており、言葉や文章を正確に理解し適切に表現したり、人との関わりの中で伝え合ったりするために必要となる、基礎的・基本的な知識・技能の習得と、思考力・判断力・表現力等の育成に向けて、指導の一層の充実が必要である。

今後も、言語を手掛かりとしながら論理的に思考する力や、目的や意図に応じて、自分の考えが相手に伝わりやすいように表現する力を高めるように指導することが重要である。

#### ◆内容・観点に関わる考察

- 「言葉の特徴や使い方に関する事項」では、敬語について理解し、正しく使うことや、文と文との接続の関係についての理解などに課題が見られた。実際の生活の中で敬語を使うことができるようにするために、授業だけでなく学校生活全般にわたって、丁寧な指導を継続していくことが必要である。また、文と文との接続の関係を理解することは、分かりやすい文章を書くためにも重要であるため、文の中での接続する語句の役割について理解を深めることが大切である。
- 「情報の扱い方に関する事項」では、情報と情報との関係について理解し、目的に応じて文章を簡単に書くことに課題が見られた。書く目的や意図を明確にした上で、文章を簡単に書くために必要な情報を資料などから取り出すとともに、取り出した情報は整理し、それを活用して、伝えたいことを明確にして書く学習を取り入れることが大切である。
- 「我が国の言語文化に関する事項」では、すべての設問で本市正答率が参考値を上回る結果であった。その理由として、語源や、その語がどのように伝わってきたのかについて関心をもち、そこから語句について辞書や事典などで調べたり、関連する語について知識を得ようとしたりする学習の充実が図られていることが考えられる。
- 「話すこと・聞くこと」では、ほとんどの設問で本市正答率が参考値を上回り、すべての設問で本市正答率が 75%を超える結果であった。その理由として、話し合い等の場面で、発表者の意見やその理由など、ポイントを押さえて聞くことや、意図に応じて質問を工夫することなどの指導の充実が挙げられる。
- 「書くこと」では、予想される反論とそれに対する意見を書くことなどに課題が見られた。文章を書く前に、理由や反論、事例などを構成メモ等に整理し、文章全体の構成や展開を考える活動に取り組みせ、より説得力のある意見となるように書き方を工夫させることが大切である。
- 「読むこと」では、すべての設問で本市正答率が参考値と同程度の結果であった。その理由として、文学的な文章について、描写をもとに登場人物の心情や様子についてとらえる力や、説明的な文章について、文章全体の構成をとらえる力を高めることを重視した指導の充実が図られていることが考えられる。

### ◆基礎・活用問題に関わる考察

正答率は、基礎問題は 71.3%，活用問題は 62.7%となっており、参考値との差は、それぞれ、-1.8 ポイント，+0.6 ポイントとなっている。

活用問題の本市正答率が参考値を上回っている理由として、社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考え、説明したり、考えをもとに議論したりするなど、思考・判断したことをまとめたり伝え合ったりする学習活動を重視した指導の充実が図られていることが挙げられる。

今後も、社会的事象の見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする学習活動の充実を図る中で、知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等のバランスのよい育成を図るとともに、課題の解決に向けて思考・判断したことをもとに議論する力を養うよう指導することが重要である。

なお、地図帳や地球儀、統計などの各種の基礎的資料を通して、情報を適切に調べ、白地図や年表、図表などにまとめたり、説明したりする技能については、児童の発達の段階や学習内容相互の関連など、系統性に留意して、計画的に指導していくことが大切である。

### ◆内容・観点に関わる考察

- 「国土の自然環境などの様子」では、公害についての理解などに課題が見られた。日本の公害の発生時期や経過について確認するとともに、公害から国土の環境や国民の健康を守ることの大切さについて理解を深めたい。
- 「農業や水産業」及び「工業生産」では、ほとんどの設問で本市正答率が参考値を上回る結果であったが、日本の主な食料の自給率についての理解に課題が見られた。日本の主な食料の輸出入品目や相手国、食料自給率を調べるなどの活動を通して、外国との関わりへの関心を高めることが重要である。
- 「産業と情報との関わり」では、すべての設問で本市正答率が参考値を上回る結果であった。その理由として、インターネットを利用するときの注意や、スーパーマーケットにおける情報活用の利点について理解を深められるよう、社会の情報化と産業との関わりについて考えさせる指導の充実が図られていることが挙げられる。
- 「日本の政治」では、議会政治について、資料をもとに考え、表現することに課題が見られた。国会が国の唯一の立法機関として法律を制定する流れについて、具体的なイメージをもてるよう、資料を活用して指導することが大切である。
- 「日本の歴史」では、雪舟についての理解や、写真資料と地図をもとに、元との戦いで防塁が築かれた場所を判断することなどに課題が見られた。各時代の文化については、資料を活用して、その文化を代表する建造物や文学、絵画などの作品、活躍した人物等とともに、その文化の特色を他の時代と比較して押さえることが大切である。また、各時代の主な事象については、その事象が起こったときの社会の様子や、その事象が社会や人々にどのような影響を与えたのかなどの問いを設定し、調べたことや考えたことを発表させるなどの学習を工夫し、定着を図ることが大切である。

### ◆基礎・活用問題に関わる考察

正答率は、基礎問題は 78.0%、活用問題は 66.4%となっており、参考値との差は、それぞれ、+2.0 ポイント、+9.1 ポイントとなっている。

基礎・活用問題の本市正答率がともに参考値を上回っている理由として、数の意味と表現、計算に関して成り立つ性質に着目し、多面的にとらえ、計算の仕方を考える態度や能力を高めたり、数量の関係を数学的な表現を用いて説明する力を高めたりする学習活動の充実が図られていることが挙げられる。

今後、数学的な見方・考え方を働かせながら問題を解決する活動や、言葉、図、数、式、表、グラフ等の数学的な表現を用いて、筋道を立てて考え、表現する活動の充実を図るとともに、児童の実態に応じたきめ細かな指導を行うことが重要である。

### ◆内容・観点に関わる考察

- 「数と計算」では、基本的な分数の四則計算や、比較量、基準量が分数の場合において、比較量が基準量の何倍になるかを求める式についての理解などに課題が見られた。分数の計算方法の意味についての理解を徹底するとともに、基本的な問題場面から、どちらの量が基準量、比較量なのかを正しく読み取ることができるよう、数量の関係を数直線などの図に表し、基準量と比較量の関係を正しくとらえられるように指導することが大切である。問題文の数量の関係を、既習の整数など簡単な数に置き換えて考えようとする態度を養いたい。
- 「図形」では、二つの角が与えられた三角形の一つの外角を求めることなどに課題が見られた。多角形の基本的な性質や、図形の中の角度の求め方について、数学的な表現を用いて説明するなどの活動を工夫し、知識の定着を図りたい。また、授業では、図形の中のどの角度を求めようとしているのか、問題から分かっている角度と分かっている角度を明らかにするなどの解決の見通しを立てるなど、きちんと確かめる習慣を付けるよう指導することが大切である。
- 「変化と関係」では、すべての設問で本市正答率が参考値を上回る結果であったが、表から面積と人数の割合を求め、どのプールが最も混んでいるかを考察することや、速さの単位の間接関係を理解し、分速を秒速や時速に直すことに課題が見られた。混み具合については、面積と人数のどちらかが等しい場合に、もう一方の数を比較できるように、混み具合を比較する方法を確実に定着させることが大切である。また、速さの単位変換については、速さを表す際に、日常の事象と関連付けて、時速、分速、秒速のうちのどれを用いると最も分かりやすいのかを考えさせる活動などを取り入れ、速さの単位の間接関係についての理解を深めたい。
- 「データの活用」では、すべての設問で本市正答率が参考値を上回る結果であったが、ヒストグラムの特徴をもとに、平均値付近の記録が最も多いわけではないことを説明することに課題が見られた。表やグラフから気付いたことをまとめたり、発表したりする活動などに組みこませる場面では、説明に使用する代表値の意味を確認させながら、表やグラフの特徴を適切に読み取り、説明する力を高めることが大切である。

◆基礎・活用問題に関わる考察

正答率は、基礎問題は 72.9%、活用問題は 64.7%となっており、参考値との差は、それぞれ、+0.7ポイント、+1.0ポイントとなっている。

基礎・活用問題の本市正答率がともに参考値を上回っている理由として、自然に親しむ活動や、理科の見方・考え方を働かせた学習活動の充実が図られていることが挙げられる。

今後も、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、結果を整理し、科学的な言葉や概念を用いて考察したり、考えを説明したりするなどの学習活動を通して、知識・技能の確実な習得を図るとともに、思考・判断・表現する力を高めるよう指導することが大切である。

◆内容・観点に関わる考察

- 「物質・エネルギー」では、コイルについての理解などに課題が見られた。習得した用語を適切に使い、自然事象を説明させる活動に繰り返し取り組ませることで、基本的な用語の確実な定着を図りたい。観察、実験を通して、児童自らが電磁石の性質に気付くことができるように指導したり、電磁石を応用した身の回りの具体例を取り上げて考えさせたりすることで、理解を深めることが大切である。
- 「生命・地球」では、月の形から、太陽がある方位と観察した時刻を指摘することなどに課題が見られた。実際に観察した月の形の見え方を、モデルや図によって表現するなど、月と太陽と地球の位置関係と、月の形の見え方の変化の関係について考えたり、説明したりする活動の充実を図ることが大切である。学校で観察ができない時間帯の変化については、シミュレーションソフトや模型、プラネタリウムなどを活用することも有効である。



◆基礎・活用問題に関わる考察

正答率は、基礎問題は 76.1%，活用問題は 69.7%となっており、参考値との差は、それぞれ、+7.4 ポイント、+6.2 ポイントとなっている。

基礎・活用問題の本市正答率がともに参考値を上回っている理由として、学習の基礎となる知識・技能の確実な習得と、日常の言語活動の中で、言葉による見方・考え方を働かせ、思考・判断・表現する活動を重視した指導の成果が表れていることが考えられる。

今後も、さまざまな場面において多様な言語活動に取り組みせるとともに、必要となる情報を取り出して話や文章を正確に理解させ、内容を精査しながら自分の考えの形成に生かしていく力を高めるよう指導することが重要である。

◆内容・観点に関わる考察

- 「言葉の特徴や使い方に関する事項」では、すべての設問で本市正答率が参考値を上回る結果であったが、「催し」の読みの定着や、用言の活用についての理解に課題が見られた。漢字については、新出漢字や熟語を用いた短文作りなどの学習活動を工夫し、基礎知識の定着を図りたい。また、文法に関しては、的確な言葉の使い方や古典文法の理解につながるものとして、その必要性を生徒たちに伝えていくことが大切である。
- 「情報の扱い方に関する事項」では、すべての設問で本市正答率が参考値を上回る結果であったが、情報と情報との関係について理解し、文章全体を整えることに課題が見られた。話や文章に含まれている情報と情報との関係をとらえて整理することは、話や文章の内容を正確に理解したり、話や文章で適切に表現したりする上で重要である。「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」との関連を図りながら、情報の扱い方に関する指導を継続したい。
- 「我が国の言語文化に関する事項」では、すべての設問で本市正答率が参考値を上回る結果であった。歴史的仮名遣いを読む力や、現代語訳を手掛かりに古典の文章を読む力等が身に付いており、文語のきまりについての理解を深めるとともに、古典に親しむことを重視した指導の充実が図られていると考えられる。
- 「話すこと・聞くこと」では、すべての設問で本市正答率が参考値を上回る結果であった。話すこと・聞くことに関する活動において、話の展開を予測しながら聞くことや、自分の立場や考えを明確にし、考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することを意識させる指導の充実が図られていると考えられる。
- 「書くこと」では、すべての設問で本市正答率が参考値を上回る結果であったが、読み取った内容を明確にして書くことに課題が見られた。説得力のある意見には必ず明確な根拠があることを生徒に理解させ、学習や実生活の中で活用していくよう促すことが重要である。
- 「読むこと」では、すべての設問で本市正答率が参考値を上回る結果であったが、文学的な文章の表現の仕方を評価することに課題が見られた。表現の効果について、話の展開などどのように関わっているかを考えさせるような発問を工夫して指導することが大切である。

### ◆基礎・活用問題に関わる考察

正答率は、基礎問題は 69.2%，活用問題は 58.2%となっており、参考値との差は、それぞれ、+4.8 ポイント、+11.2 ポイントとなっている。

基礎・活用問題の本市正答率がともに参考値を上回っている理由として、基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得とともに、生徒の主体性を引き出し、さまざまな資料を活用して、社会的事象を多面的・多角的に考察することを重視した指導の充実が図られていることが考えられる。

今後も、社会的事象の特色や意味などについて、比較したり、関連付けたりすることで多面的・多角的に事象をとらえ、表現する力を育成するとともに、主体的に社会に関わろうとする態度を養うことが重要である。

なお、社会的事象等について調べまとめる技能については、各分野、各単元の学習課題を追究したり解決したりする学習過程の中に、生徒自らが、関連のある資料をさまざまな情報手段を活用して収集する学習活動を位置付けるなどして、系統性に留意し、計画的に指導していくことが大切である。

### ◆内容・観点に関わる考察

- 「地理的分野」では、すべての設問で本市正答率が参考値を上回る結果であったが、日本の産業の特色について、複数の資料を読み取ることに課題が見られた。日本の諸地域の学習では、各地方の地形や気候の特色、その地方に属する都道府県ごとの農林水産業や鉱工業などの特色について、地図や統計資料を用いて確認する活動を通して、理解を深めさせることが大切である。
- 「歴史的分野」では、ほとんどの設問で本市正答率が参考値を上回る結果であったが、江戸時代の幕藩体制についての資料の読み取りや、打ちこわしについての理解に課題が見られた。さまざまな資料から読み取った情報をもとに、歴史の流れとそれぞれの時代の特色や具体的な歴史的事象とを関連付けてとらえさせることが大切である。
- 「公民的分野」では、公共の福祉について、資料を参考にして、自分の言葉で表現することに課題が見られた。憲法上、国民がどのような責任と義務を負っているのか、公共の福祉による人権の制限にはどのような例があるのか、生徒の生活と結び付いた具体例をもとに考えさせることで、理解を深めさせたい。

◆基礎・活用問題に関わる考察

正答率は、基礎問題は 74.8%，活用問題は 57.8%となっており、参考値との差は、それぞれ、+4.8 ポイント、+13.7 ポイントとなっている。

基礎・活用問題の本市正答率がともに参考値を上回っている理由として、数学的な見方・考え方を働かせた活動を通して、数量や図形についての豊かな感覚を養い、知識・技能の習得と、思考力・判断力・表現力等を育むことを重視した学習活動の充実が図られていることなどが挙げられる。

今後も、数学的活動を一層充実させ、数学的な問題を自立的、協働的に解決する学習過程を通して、考えや表現の質を高めるよう指導することが重要である。

◆内容・観点に関わる考察

- 「数と式」では、乗法の公式を用いて式を簡単にすることや、 $(x+m)^2=n$  の形の 2 次方程式を解くことなどに課題が見られた。式の展開の仕方や 2 次方程式の解法については、生徒自身が誤答を振り返る活動などを通し、演算記号の処理などの基本的な手順のポイントを押さえ、公式を覚えるだけでなく使いこなせるように指導するとともに、学習した内容を具体的な場面で用いて、問題を能率よく解決していく学習を進めることで、活用する力を高めることが重要である。
- 「図形」では、すべての設問で本市正答率が参考値を上回る結果であった。基本的な作図の仕方や面積の求め方等について定着を図るとともに、図形の性質や関係を直観的にとらえる力を養うことを重視した指導の充実が図られていると考えられる。
- 「関数」では、ほとんどの設問で本市正答率が参考値を上回る結果であったが、関数  $y=ax^2$  のグラフから、問題の条件に合う点の座標を求めることに課題が見られた。2 乗に比例する関数のグラフの特徴や、値の変化の特徴について、表、式、グラフを相互に関連付けて指導することによって理解を促すことが大切である。
- 「データの活用」では、すべての設問で本市正答率が参考値を上回る結果であったが、箱ひげ図から読み取れるものを判断することや、度数折れ線を読み取り、その特徴をもとに説明することに課題が見られた。箱ひげ図やヒストグラムの読み取りにおいては、複数の集団のデータの分布を比較し、データの分布の傾向を適切にとらえ、読み取った内容を説明するなどの活動を通して、根拠を明らかにして説明する力を高めたい。その際、分析結果の妥当性について批判的に考察し判断するような数学的活動に取り組むことが重要である。

### ◆基礎・活用問題に関わる考察

正答率は、基礎問題は 67.3%，活用問題は 62.6%となっており、参考値との差は、それぞれ、+3.6 ポイント、+4.8 ポイントとなっている。

基礎・活用問題の本市正答率がともに参考値を上回っている理由として、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能の習得とともに、観察、実験の結果を理科の見方・考え方を働かせ、整理、分析して考察する活動を重視した指導の充実が図られていることが挙げられる。

今後も、基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付けさせるとともに、自然の事物・現象に対する概念や原理・法則についての理解を深め、課題を解決するために必要な思考・判断・表現する力を高めるよう指導することが大切である。

### ◆内容・観点に関わる考察

- 「エネルギー」では、ほとんどの設問で本市正答率が参考値を上回る結果であったが、磁界の向きについての理解に課題が見られた。磁石やコイルのまわりの磁界の向きについては、電流の大きさによって磁界の強さが変わることや、電流の向きを変えると磁界の向きも変わることを、実験を通して理解させることが大切である。
- 「粒子」では、分解についての理解や、電流が流れる水溶液を指摘することなどに課題が見られた。水の電気分解については、実験の過程を振り返らせ、両極に発生する気体や、どちらの極にどちらの気体が発生するのか、発生した気体の体積比などを確認することが大切である。また、電流が流れる水溶液については、水溶液には電流が流れるものと流れないものがあることを実験から見いだし、電解質と非電解質に分類できることを確認し、理解を深めたい。
- 「生命」では、ほとんどの設問で本市正答率が参考値を上回る結果であったが、卵、精子、体細胞の染色体数についての理解に課題が見られた。学習した用語を用いてカエルの受精と発生の様子について説明するなどの活動の充実を図ることが大切である。
- 「地球」では、ほとんどの設問で本市正答率が参考値を上回る結果であったが、前線の断面の様子についての理解に課題が見られた。前線については、天気図上の前線の動きを視覚的にとらえ、地上での天気の変化や空気の動きと関連付けて考えさせたり、前線の通過する前後の気温や風向などの観測結果と実際の経験を関連付けて理解させたりすることが大切である。

### ◆基礎・活用問題に関わる考察

正答率は、基礎問題は 65.2%、活用問題は 56.6%となっており、参考値との差は、それぞれ、+4.8 ポイント、+12.2 ポイントとなっている。

基礎・活用問題の本市正答率がともに参考値を上回っている理由として、日常的话题や社会的な話題について、コミュニケーションを行う目的や状況などの設定を工夫し、意味のある文脈の中でやり取りを重ねながら基本的な表現の定着を図るとともに、目的や相手に応じた表現を用いて、情報や自分の思い、考えを伝え合う力を高めることを重視した指導の充実が図られていることが挙げられる。

今後も、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて自分の考えや気持ちを適切に表現したり、情報や考えなどを的確に理解したりする力を身に付けられるよう、生徒の学習状況を的確にとらえて、言語活動の内容を工夫することが大切である。

### ◆内容・観点に関わる考察

- 「聞くこと」では、ほとんどの設問で本市正答率が参考値を上回る結果であったが、英文を聞き、その内容に合致した絵を選ぶ問題に課題が見られた。聞く活動を行う際には、生徒に課題に応じた聞き方を身に付けさせることが必要であり、話し手の立場や会話の場面を踏まえて予想させたり、ポイントになるキーワードに注目させたりするなどの指導が有効である。聞き取れなかった箇所については、スクリプトを確認した後に再度聞かせたり、聞けなかった箇所を意識しながら音読したりするよう指導することで、理解を深めさせることが大切である。
- 「読むこと」では、対話文を読み、文構造や文法事項についての理解をもとに言語材料を正しく選択することや、メールを読み、その内容から適切な語句を選ぶことなどに課題が見られた。文構造や文法事項の定着を図るためには、段階的・継続的に指導することで、繰り返し表現に触れる機会をもち、反復学習させることが大切である。長文の読み取りについては、内容を図や表にまとめさせたり、各段落にタイトルを付けて確認したりするなど、要旨をつかむ練習を積ませることが有効である。また、読む前に生徒とのやり取りを通して言語材料や要点について理解を深めたり、音声を聞かせたりするなど、活動前の指導の工夫が効果的である。
- 「書くこと」では、すべての設問で本市正答率が参考値を上回る結果であったが、対話の流れに合った英文を、相手に伝わるように書くことなどに課題が見られた。日常的な会話において使用する基本的な表現について、実際にやり取りするなどしながら音声面で使い慣れさせた後に英文を書く練習を積ませることが大切である。その際には、文字言語については、音声言語よりも正確さが重視されることを留意して指導する必要がある。また、言語使用場面を設定し、目的や相手を明確にした上で、表現を実際のコミュニケーション活動の中で繰り返し使わせることで、定着を図ることが重要である。